香川県埋蔵文化財センター年報

平成 30 年度

2019. 12

香川県埋蔵文化財センター

は じ め に

香川県埋蔵文化財センターは、埋蔵文化財の調査及び研究を行うとともに、その保存と活用を図り、県民の文化的向上に資するため、昭和 62 年 11 月 1 日に設置されました。

平成 30 年度は、国道バイパス建設、県所管国道整備、都市計画道路整備に伴う埋蔵文化財の発掘調査及び、国道バイパス建設、発掘調査の整理、報告書刊行をはじめ、出土品の保管、讃岐国府跡調査事業、香川県内遺跡発掘事業などを実施しました。そして、これらの調査や整理によって得られた多くの成果をもとに、展示や体験講座、考古学講座などの普及啓発業務を行い、埋蔵文化財の保護意識の向上に努めました。

本書は、平成 30 年度に実施した事業の内容をまとめたものです。本書が地域の歴史や文化の理解への一助になれば幸いです。

最後になりましたが、ご指導、ご協力をいただいた関係各位にお礼を申し上げますとともに、今後とも当センターの活動に皆様の一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和元年 12 月

香川県埋蔵文化財センター
所　長　　西岡　達哉

目　次

はじめに
Ⅰ　組織・施設・決算　……1
　1　香川県埋蔵文化財センターの組織……1
　2　施設の概要……2
　3　決算の状況……3
Ⅱ　事業概要……4
　1　埋蔵文化財調査事業……4
　　城泉遺跡……6
　　名遺跡……9
　　岸の上遺跡……13
　　沖遺跡……17
　　本町二丁目遺跡……19
　2　普及・啓発事業……21
　　（1）　展示　……21
　　（2）　現地説明会・地元説明会……21
　　（3）　講師の派遣……22
　　（4）　体験講座……22
　　（5）　発掘体験講座……23
　　（6）　考古学講座……23
　　（7）　まいぶんボランティア活動……23
　　（8）　新聞記事掲載……23
　　（9）　資料の貸出・利用……23
　　(10)　職場体験学習・インターンシップ　……24
　　(11)　刊行物……24
　　(12)　ホームページ……24
　　(13)　資料の寄贈……24
　3　讃岐国府跡探索事業・讃岐国府探究事業……25
　　（1）　ボランティア活動……25
　　（2）　地域との交流……25
　　（3）　情報発信……25
　　（4）　関連行事……26
　　（5）　発掘調査　讃岐国府跡第36次調査……27
　4　香川県内遺跡発掘事業……36
　　今岡古墳……36

挿　図　目　次

第 1 図　発掘調査遺跡位置図…… 5

城泉遺跡

第 2 図　遺跡位置図（1/25,000）…… 6

第 3 図　平面図…… 8

名遺跡

第 4 図　遺跡位置図（1/25,000）…… 9

第 5 図　平面図（1 面）…… 11

第 6 図　平面図（2 面）…… 12

岸の上遺跡

第 7 図　遺跡位置図（1/25,000）…… 13

第 8 図　調査区配置図…… 15

第 9 図　11 区・12 区　平面図…… 16

沖遺跡

第 10 図　遺跡位置図（1/25,000）…… 17

第 11 図　遺構配置図…… 18

本町二丁目遺跡

第 12 図　遺跡位置図（1/25,000）…… 19

第 13 図　調査区の位置…… 19

第 14 図　江戸時代の遺構…… 20

讃岐国府跡第 36 次調査

第 15 図　遺跡位置図（1/25,000）…… 27

第 16 図　讃岐国府跡調査地…… 29

第 17 図　36-1 ～ 36-3 区　平・断面図 …… 30

第 18 図　低地帯 2 周辺柱状図…… 31

第 19 図　36-1 ～ 31-6 区　平面図 …… 32

第 20 図　36-4 ～ 36-6 区　断面図 …… 33

今岡古墳

第 21 図　遺跡位置図（1/25,000）…… 36

第 22 図　トレンチ配置図…… 39

第 23 図　1 トレンチ
平・断面図（S=1/100）…… 40

第 24 図　3 トレンチ
平・断面図（S=1/40）…… 40

第 25 図　4 トレンチ
平・断面図（S=1/40）…… 41

写　真　目　次

城泉遺跡

写真 1　10 区　完掘状況 …… 6

写真 2　SH10001　土器出土状況 …… 6

写真 3　SH11001　完掘状況 …… 7

写真 4　SR11001　出土遺物状況…… 7

名遺跡

写真 5　SD10001　完掘状況 …… 10

写真 6　10 区　水田面検出状況 …… 10

写真 7　水田面付近蓄積状況 …… 10

写真 8　SR12001 完掘状況 …… 10

岸の上遺跡

写真 9　11 区 1 面　完掘状況 …… 14

写真 10　12 区 2 面　完掘状況…… 14

写真 11　SH12001　カマド検出状況 …… 14

写真 12　SH12001　床面検出状況 …… 14

沖遺跡

写真 13　溝状遺構　古墳時代 …… 17

写真 14　1-1 区全景（1 面）…… 17

本町二丁目遺跡

写真 15　①区浜堤堆積物堆積状況 …… 19

写真 16　2 区全景
18 世紀後半から 19 世紀の遺構 … 19

讃岐国府跡第 36 次調査

写真 17　36-1 ～ 36-3 区　全景 …… 34

写真 18　36-1 区　深掘位置 …… 34

写真 19　36-1 区　断面深掘り …… 34

写真 20　36-2 区　断面深掘り …… 34

写真 21　36-3 区　断面 …… 34

写真 22　36-4・36-5 区　全景 …… 34

写真 23　36-4 区　SD03 平面 …… 34

写真 24　36-4 区　斜面検出 …… 34
写真 25　36-4 区　断面 …… 35
写真 26　36-5 区　遺構検出状況 …… 35
写真 27　36-5 区　SP12…… 35
写真 28　36-5 区　SP12 断面 …… 35
写真 29　36-5 区　SP19 断面 …… 35
写真 30　36-5 区　断面 …… 35
写真 31　36-6 区　全景 …… 35
写真 32　36-6 区　断面 …… 35

今岡古墳

写真 33　1 トレンチ完掘状況 (東から) …… 36
写真 34　1 トレンチ平坦面上転落物出土状況
…… 37
写真 35　3・4 トレンチ完掘状況 (東から)
…… 37
写真 36　3 トレンチ北壁　盛土の状況…… 37
写真 37　4 トレンチ完掘状況 (西から) …… 37

表　目　次

第 1 表　職員一覧…… 2
第 2 表　発掘調査決算…… 3
第 3 表　整理・報告決算…… 3
第 4 表　管理運営費等決算…… 3
第 5 表　発掘調査遺跡一覧…… 4
第 6 表　遺跡の概要一覧…… 4
第 7 表　整理・報告遺跡一覧…… 5
第 8 表　刊行報告書一覧…… 5
第 9 表　展示一覧…… 21
第 10 表　入館者数一覧…… 21
第 11 表　センター外展示一覧…… 21
第 12 表　現地説明会・地元説明会一覧…… 21
第 13 表　体験講座への講師派遣一覧…… 22
第 14 表　講演等への講師派遣一覧…… 22
第 15 表　体験講座実施事業一覧…… 22
第 16 表　発掘体験講座…… 23
第 17 表　考古学講座…… 23
第 18 表　資料貸出・利用一覧（数字は件数)‥
…… 23
第 19 表　職場体験学習・インターンシップ一覧
…… 24
第 20 表　地域との交流一覧…… 25
第 21 表　情報発信一覧…… 25
第 22 表　関連行事一覧…… 26

（註）

1　本書で用いる座標系は世界測地系（国土座標第Ⅳ系）で、標高は東京湾平均海水面を基準とした。

2　遺構は次の略号により表示した。

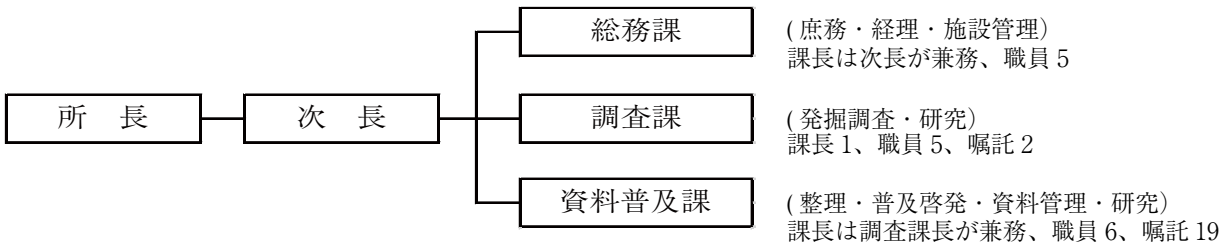
SH　竪穴建物　　SB　掘立柱建物　　SP　柱穴・小穴　　SK　土坑　　SE　井戸　　SD　溝
SR　旧河道　　SX　性格不明遺構　　SF　竈

3　遺跡位置図は国土地理院地形図（1/25,000）に遺跡位置を追記して掲載した。

Ⅰ　組織・施設・決算

1　香川県埋蔵文化財センターの組織

(1) 組　織



(2) 職　員

平成 30 年 4 月 1 日現在

所　属	職　名	氏　名
所　長		西岡　達哉
次　長		時松　弘志
総務課	課長（兼務）	時松　弘志
	副主幹	斎藤　政好
	主任	高橋　範行
	主任	丸尾麻知子
	主任	木村　義信
	主任	横井　隆史
調査課	課長	古野　徳久
	文化財専門員	森下　友子
	文化財専門員	宮崎　哲治
	主任	熊野　博実
	技師	竹内　裕貴
	技師	益崎　卓己
	嘱託	徳永　貴美
	嘱託	角野　勲
資料普及課	課長（兼務）	古野　徳久
	主任文化財専門員	山下　平重
	主任文化財専門員	森下　英治
	主任文化財専門員	蔵本　晋司
	主任文化財専門員	松本　和彦
	主任文化財専門員	乗松　真也

資料普及課	文化財専門員	山元　素子
	嘱　託	正本由希子
	嘱　託	岡本　光代
	嘱　託	青屋　真理
	嘱　託	竹内　悦子
	嘱　託	北濱　敦子
	嘱　託	畑　美香
	嘱　託	小早川真由美
	嘱　託	土井　美穂
	嘱　託	宮﨑　直子
	嘱　託	大山　和子
	嘱　託	加藤　恵子
	嘱　託	小林奈充子
	嘱　託	佐々木博子
	嘱　託	中野　優美
	嘱　託	山本基公美
	嘱　託	佐立　晶子
	嘱　託	池内　妙子
	嘱　託	大林真沙代
	嘱　託	森　后代

第１表　職員一覧

２　施設の概要

(1) 所 在 地　　香川県坂出市府中町字南谷 5001-4

(2) 敷地面積　　11,049.23㎡

(3) 建物構造・延床面積

①本　館	鉄筋コンクリート造・２階建（一部鉄骨造・平屋建）	1,362.23㎡
②分　館	軽量鉄骨造・２階建	337.35㎡
③第１収蔵庫	鉄骨造・２階建	1,525.32㎡
④第２収蔵庫	鉄骨造・３階建	2,040.33㎡
⑤車　庫	鉄骨造・平屋建	29.97㎡
⑥自転車置場	鉄骨造・平屋建	25.00㎡

３　決算の状況

（単位：千円）

原因者	遺跡名	決算
国土交通省	城泉遺跡	40,446
道路課	名遺跡	16,313
	岸の上遺跡	18,554
	沖遺跡	4,192
都市計画課	本町二丁目遺跡	3,210

※職員人件費は除く。

第２表　発掘調査決算

（単位：千円）

原因者	遺跡名	決算
国土交通省	三殿北遺跡	9,062
	西村遺跡	881
道路課	北野遺跡	13,728
	鎌野西遺跡	6,741
	津森位遺跡	4,845
	中又北遺跡	12,146
	三谷中原遺跡	309
	上林遺跡	563
	岸の上遺跡	1,500
特別支援教育課	旧練兵場遺跡	27,722
高校教育課	石田高校校庭内遺跡	627

※職員人件費は除く。

第３表　整理・報告決算

（単位：千円）

事業名		決算
管理運営費等	管理運営費	4,298
	職員給与費	137,813
	讃岐国府跡調査事業	10,827
合計		152,938

第４表　管理運営費等決算

Ⅱ　事業概要

1　埋蔵文化財調査事業

発掘調査を分掌する調査課では調査班２班を編成し、国道バイパス建設、県所管国道整備、都市計画道路整備に伴い計５遺跡の発掘調査を行った。

一方、報告書作成を分掌する資料普及課では整理班３班を編成し、国道バイパス建設、県所管国道整備、県道整備、学校整備に伴う６遺跡の整理及び５冊の報告書の刊行を行った。

原因者	事業名	遺跡名	所在地	調査面積(㎡)	調査期間
国土交通省	国道 11 号大内白鳥バイパス	城泉遺跡	東かがわ市白鳥	1,768	6 月～ 10 月
道路課	国道 438 号	名遺跡	丸亀市飯山町	1,612	4 月～ 6 月
		岸の上遺跡	丸亀市飯山町	380	11 月～ 3 月
		沖遺跡	丸亀市飯山町	130	9 月～ 10 月
都市計画課	富士見町線	本町二丁目遺跡	坂出市本町	620	11 月～ 12 月

第５表　発掘調査遺跡一覧

遺跡名	遺跡の概要	主な遺構・遺物
城泉遺跡	古墳時代の集落遺跡 中世～近世の生産遺跡	古墳時代中期の竪穴建物、旧河道 古代～近世の溝 土師器、須恵器、木製品
名遺跡	弥生時代～近世の生産遺跡	弥生時代～古代の水田跡 古代末～中世の条里地割坪境 弥生土器、土師器、須恵器
岸の上遺跡	弥生時代～古墳時代の集落遺跡 古代～近世の生産遺跡	弥生時代～古墳時代の竪穴建物 飛鳥時代～奈良時代の条里地割平行の掘立柱建物 土師器・須恵器
沖遺跡	弥生時代～中世の生産遺跡	弥生時代～中世の溝 弥生土器、土師器、須恵器
本町二丁目遺跡	中世以前の浜堤 江戸時代～明治時代初期の集落	江戸時代～明治時代初期の道・側溝、柱穴、土坑 中世の土師質土器・陶器 江戸時代～明治時代初期の土師器・陶磁器

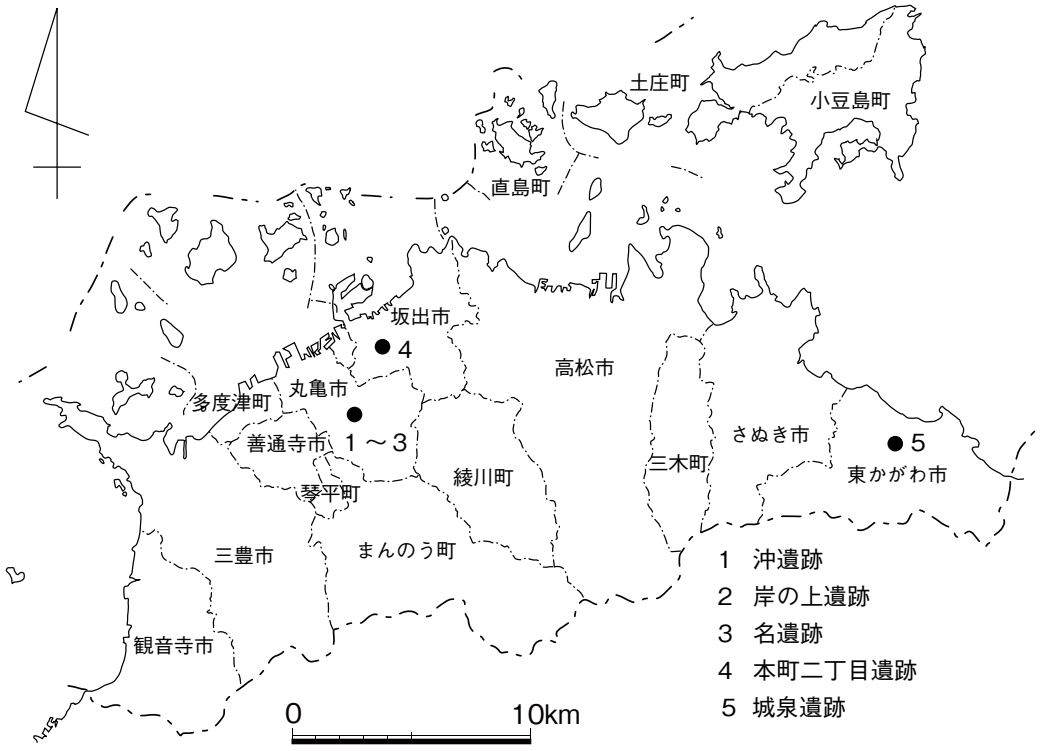
第６表　遺跡の概要一覧

原因者	遺跡名	所在地	整理期間
国土交通省	三殿北遺跡	東かがわ市三殿	7月～1月
	西村遺跡	東かがわ市西村	報告書刊行（前年度整理）
道路課	北野遺跡	高松市三谷町	7月～11月
	鎌野西遺跡	高松市三谷町	8月～12月
	津森位遺跡	丸亀市津森町	1～3月
	中又北遺跡	多度津町	4～6月、2月～3月
	三谷中原遺跡	高松市三谷町	報告書刊行（前年度整理）
	上林遺跡	高松市上林町	報告書刊行（前年度整理）
	岸の上遺跡	丸亀市飯山町	報告書刊行（前年度整理）
特別支援教育課	旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町	4～3月
高校教育課	石田高校校庭内遺跡	さぬき市寒川町	報告書刊行（前年度整理）

第７表　整理・報告遺跡一覧

書名
国道11号大内白鳥バイパス改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第5冊　西村遺跡
県道中徳三谷高松線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 上林遺跡
県道中徳三谷高松線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊 三谷中原遺跡
国道４３８号道路改築事業（飯山工区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第6冊 岸の上遺跡Ⅰ
県立石田高等学校造園実習棟新築等に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　石田高校校庭内遺跡
讃岐国府跡2
香川県埋蔵文化財センター年報　平成29年度
埋蔵文化財試掘調査報告30 －平成29年度香川県内遺跡発掘調査－

第８表　刊行報告書一覧



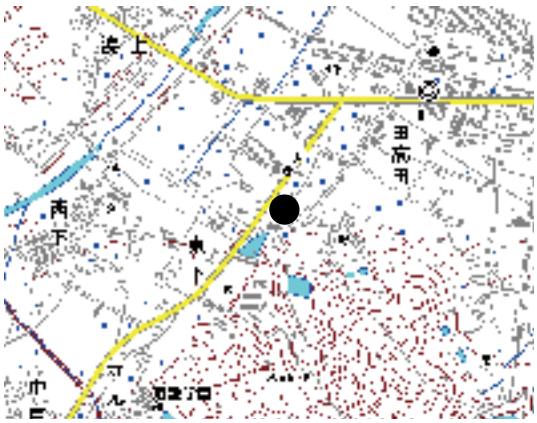
第１図　発掘調査遺跡位置図

城泉（しろいずみ）遺跡

城泉遺跡は、東かがわ市白鳥に位置する。国道11号大内白鳥バイパス建設に伴い、発掘調査を実施した。遺跡は、調査地の東側に位置する丘陵への裾及び、現在のため池に引き継がれる谷筋と、西端に微高地が展開する地点に立地している。

一部遺構面が２面確認されており、調査面積は1,768㎡である。

調査区は、工程の都合上大きく５つに分け（10区～14区､1～9区は平成23年度調査）調査を行った。調査の結果、弥生時代～近世までの遺構・遺物が確認されたが、その中でも特に、古墳時代中期を中心とした集落の状況が明らかとなった。



第２図　遺跡位置図（1/25,000）

10区は、調査区の東に位置する谷筋から西側に上がった微高地に位置する。遺構面が２面確認できるが、大半の遺構は１面にみられ、竪穴建物６棟と、溝、柱穴などが検出された。

写真１　10区　完掘状況

竪穴建物（SH10001~10006）は、いずれも平面プランが方形であり竈を持たない。建物方位は主に３方向に分けられ、切り合い関係にある建物が異なる方位を有することから、方位の差が時期差を表わすと考えられる。最も深度が深いもので遺構面から0.6ｍ程を測る。一部の建物では、床面の中央ないしはその近くに、焼土及び炭化物の集中する範囲が認められ、火処の状況を示す可能性がある。

SH10001は埋土に多量の土師器が含まれていた。ほぼ完形のものも多く含んでおり、意図的に多量の土師器が投棄された状況が推定できる。同時期の遺構の類例は少ないが、住居廃絶などに伴う祭祀等の可能性も考えられよう。

写真２　SH10001　土器出土状況

竪穴建物出土遺物の大半は土師器であるが、建物間で大きな型式差は認められない。また、出土土器類に須恵器を一切含まないことから、竪穴建物出土遺物は、古墳時代前期末～中期初頭の埋没が想定され、比較的短期間に営まれたものと考えられる。

11区においては、谷筋に由来する旧河道や、それらの埋没後の小規模な溝群が確認できる。旧河道は検出最大幅約12ｍ､深さ1.5ｍを測り､おおむね東側の丘陵と同方向に､やや蛇行しながら流れている。

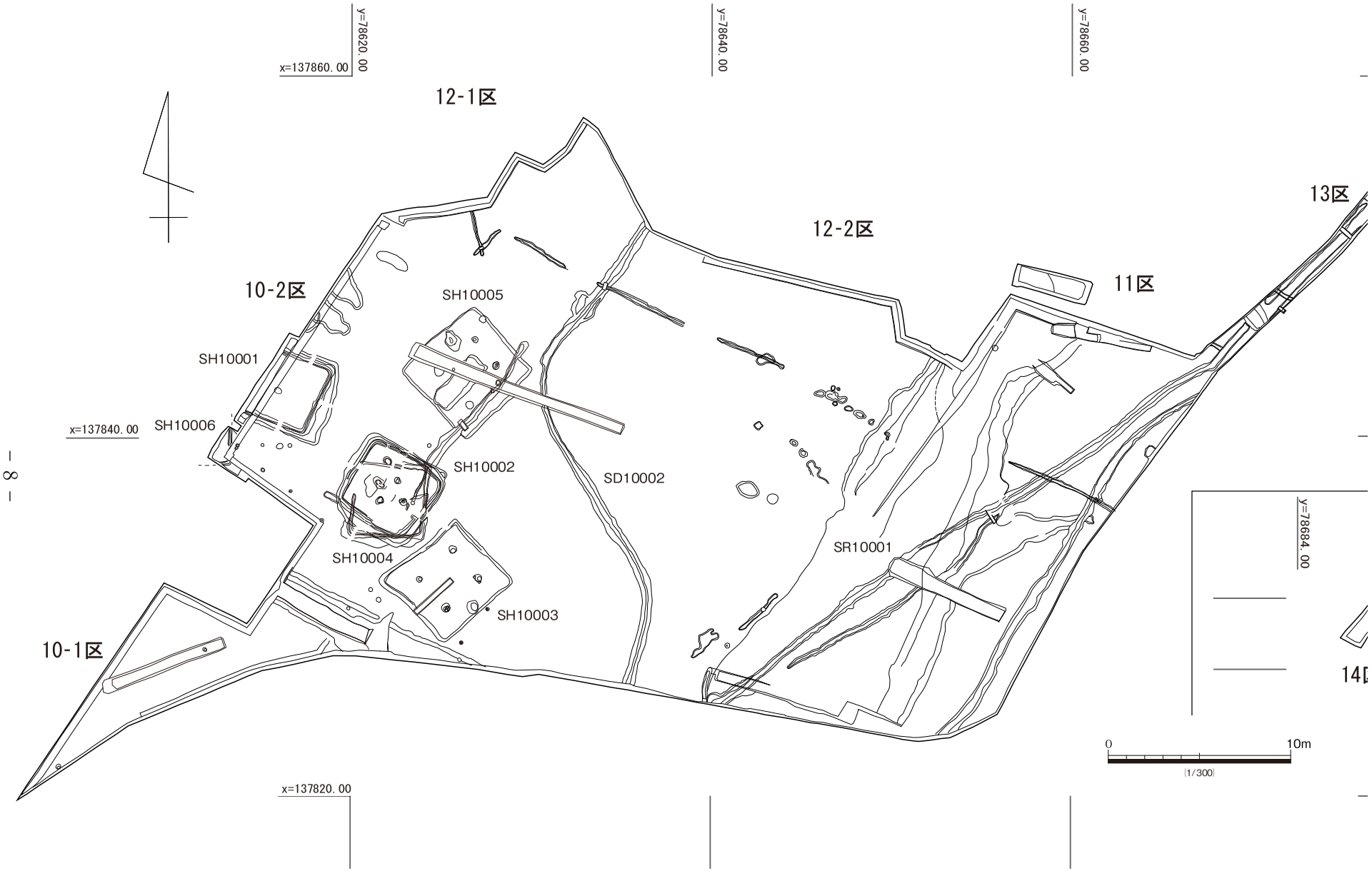
埋土の観察から、埋没段階は４段階（１～４層）に大別でき、埋土に含まれる遺物の年代観から、古墳時代前期末～古墳時代後期の間に埋没が進んだものと考えられる。古墳時代中期に埋没したと考えられる黒褐色粘質土層（３層）からは、特に木製品及び土器類が多く出土している。一部 TK208 型式の須恵器を含み、３層の埋没年代を示すと考えられる。木製品については、未加工の木材や樹皮、葉などの自然遺物もみられるが、加工痕がみられるものも多い。農具などの器物の出土は少なく、柱材や栓材、矢板材などの建築・土木材が多くを占める。木器品製作に伴う痕跡はなく、建物の廃絶等に伴い、多量に旧河道に廃棄されたと状況が推定される。10 区の竪穴建物が古墳時代中期のごく短い期間に存在し、それ以降集落形成がない状況と関連している可能性も考えられる。

写真３　SH11001　完掘状況

写真４　SR11001　出土遺物状況

12 区～ 14 区については、遺構の密度は低く、出土遺物も少量である。

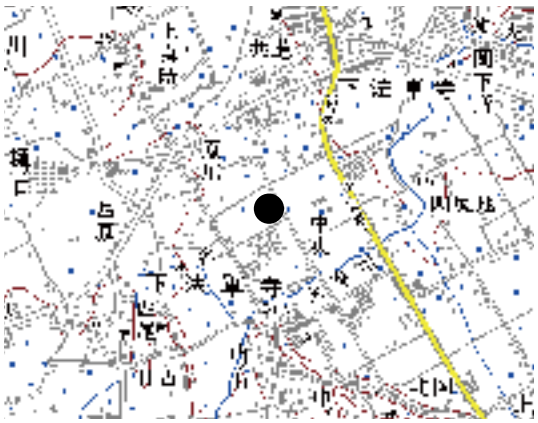
古墳時代中期は県内で集落数が減少する時期であり、県内の古墳時代集落の盛衰を考える上で興味深い事例であり、古墳時代中期にも一定数古墳が継続して築造される東かがわ市域の、同時期の集落遺跡との比較を行い、遺跡の特徴について考える必要がある。


y=78620.00
x=137860.00
y=78640.00
y=78660.00
12-1区
13区
12-2区
11区
10-2区
SH10005
SH10001
x=137840.00
SH10006
SH10002
SD10002
SH10004
SR10001
SH10003
10-1区
y=78684.00
14区
0
10m
(1/300)
x=137820.00

第３図　平面図

名（みょう）遺跡

丸亀市飯山町に所在する。平成 30 年４月から６月の期間で発掘調査を行った。調査対象面積は 1,913㎡で、２面の遺構面が確認された。



第４図　遺跡位置図（1/25,000）

名遺跡は丸亀平野南西に位置する。遺跡の周囲では現在でも条里型地割の痕跡を残す、整然とした地割が確認できる。遺跡の西 300 ｍには、古代寺院として知られる法勲寺が所在し、法勲寺の周辺に関しては、条里型地割ではなく、正方位を指向する地割が残存する。また、周辺を流れる大束川の流下方向が地形と逆にむかう「逆さ川」がみられ、名遺跡の南側においては条里の坪境に相当する位置に同方向で現大束川が流下するなど、周辺の開発の痕跡は現在の河川にも残されている。遺跡は遺跡南西に所在する岡田台地の縁辺にあたり、今回調査範囲の南部は、台地上の開析谷に由来する低地に位置する。遺跡の北部に微高地が展開し、南端付近においては低地が広がることが想定され、過年度調査でも、遺跡の北側では建物遺構がいくつか確認されている。

今回の調査では、前年度の３月まで行われた北側の調査区名を踏襲し、８～ 13 区の調査区に分けて調査を行った。調査の結果、地形に合致する形で水田遺構が見つかったほか、それらの埋没後に開削された条里型地割施工にかかわる遺構が検出されるなど、土地利用と開発の痕跡が明瞭に確認された。

基本層序については、礫を多く含む褐色土、ないしは黄褐色粘質土上に、黒褐色粘質土が堆積し、この上面に２面が確認される。遺構面を形成する黒褐色粘質土の堆積年代については、最下層付近で弥生時代中期後半の土器片が確認され、２面の上面となる層からは弥生時代後期の遺物が確認されることから、これらに近い堆積年代を考える。２面の埋没の際には、粗砂と中流砂を中心とした洪水に由来する堆積物が確認でき、洪水砂による遺構面の埋没が確認できる。洪水砂は土器川の氾濫によると考えられ、その後平坦化された面において遺構が形成される（１面）。

以下、各遺構面で検出された主要な遺構について言及する。

１面

１面においては、古代以降の遺構が検出される。10 区や 11 区近辺には、現在の地割からも想定される条里型地割の坪境が相当する。発掘調査でもこれらに一致する位置に溝が確認できた。溝は南北・東西方向ともに検出され、幅１．２ｍ程であり、深度は 20cm ほどと浅い。出土遺物の年代は古代末～中世初頭を下限とすることから、この時期を溝の埋没時期と想定する。開削時期については、古代を通しての溝の長期存続の可能性も想定されるが、平成 29 年度調査において検出された古代の建物の主軸が、条里方向と合致しないことからも、溝の開削と埋没時期にそれほどの時期差を想定しなくともよいであろう。

このほか、小規模な柱穴や、近世以降の廃棄土坑もみられるが、建物などを復元することはできない上に、遺物の出土も比較的僅少である。なお、廃棄土坑は近隣の遺跡の事例も含め、地割の近辺に掘削

されることが多い。遺物の出土状況からも今回調査範囲が、居住域としてではなく耕作地等の生産域としての使用が主であったと想定できる。

２面

２面においては、水田遺構とそれに関連する可能性のある溝等が検出された。水田は、現在の地割に合致せず、南西方向から展開する低地の広がりに合わせ、北東方向に向かい、裾広がりに広がる形態を呈する。水田自体は小規模な区画をもち、各区画は２～5㎡ほどの広さを持つ。調査範囲の東側に向かうにつれ、区画はやや直線的かつ平面方形になる。２面は洪水砂によって被覆されており、当時の状況に近い残りの良い状態で水田が遺存していた。畦畔や水田耕土面からの標高を整理すると、推定する谷の深部に近い 12・13 区に向かうにつれ、水田面の標高が下がるため、自然地形を利用し、田渡しによって配水し、低地の部分において排水する構造であった。なお、各区画への配水に伴う水路の痕跡や、畦に設けられた明確な水口などは確認できなかった。

水田に伴う可能性が高い遺構として、10 区で検出された SD10003 や 12 区で検出された SR12001 が挙げられる。SR12001 については、幅約４m、最大深度約 1.5 m を測り、水田やそのほかの層位との関連が不明瞭であるが、大規模な水路としての関連も想定できる。SR12001 の南側にも、水田区画の痕跡が確認できるが、北側のものと同一であるかは不明である。

SD10003 は、規模は小規模であるが、溝の北側の肩に畦畔が伴うなどの特徴から、水田と関連する溝の可能性が高いが、11 区において連続して検出できていないため、機能や関連性を含めた詳細は不明である。

写真５　SD10001　完掘状況

写真６　10 区　水田面検出状況

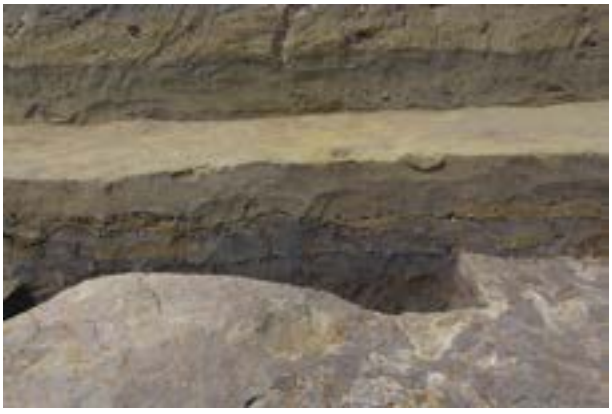
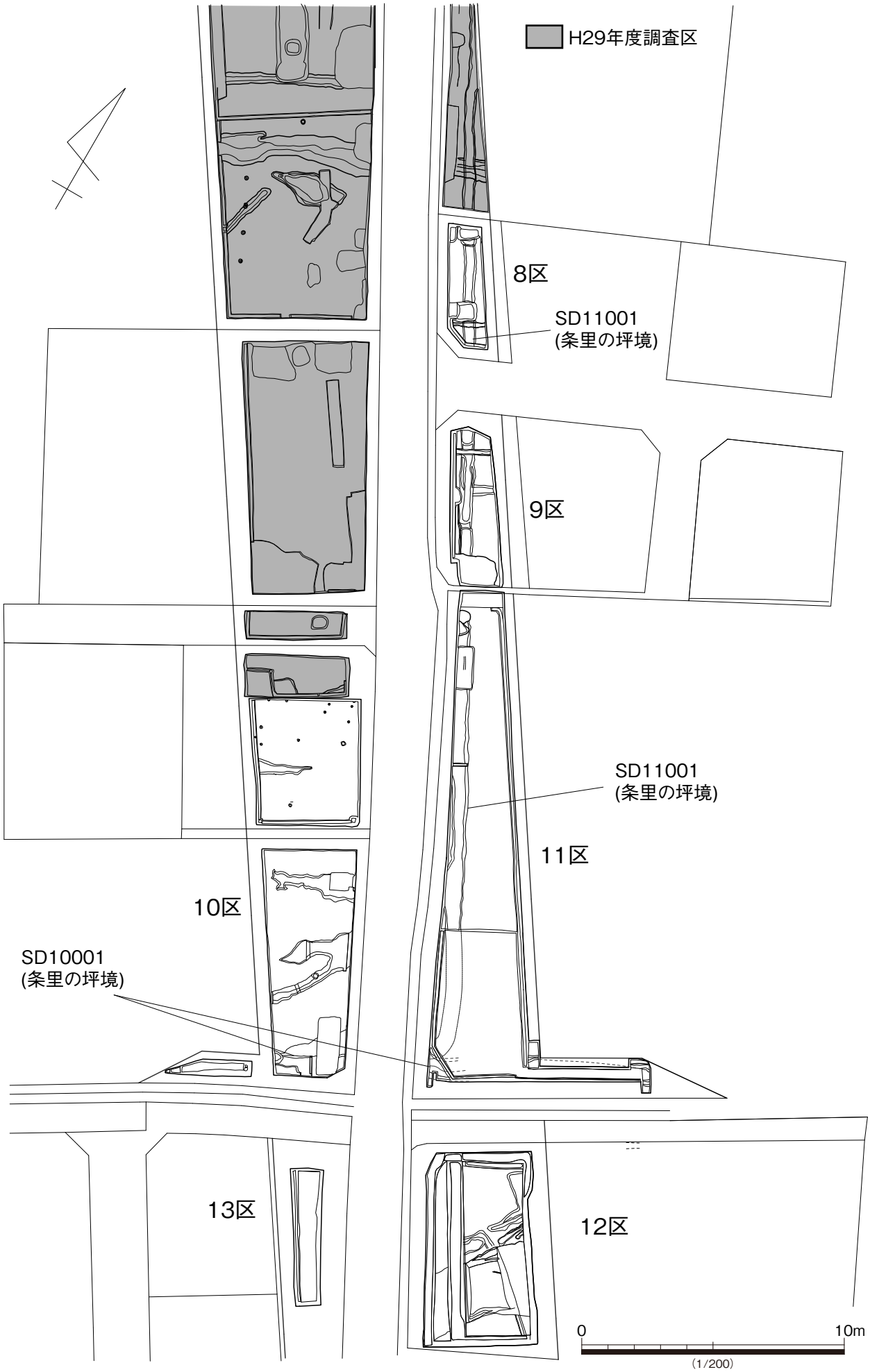
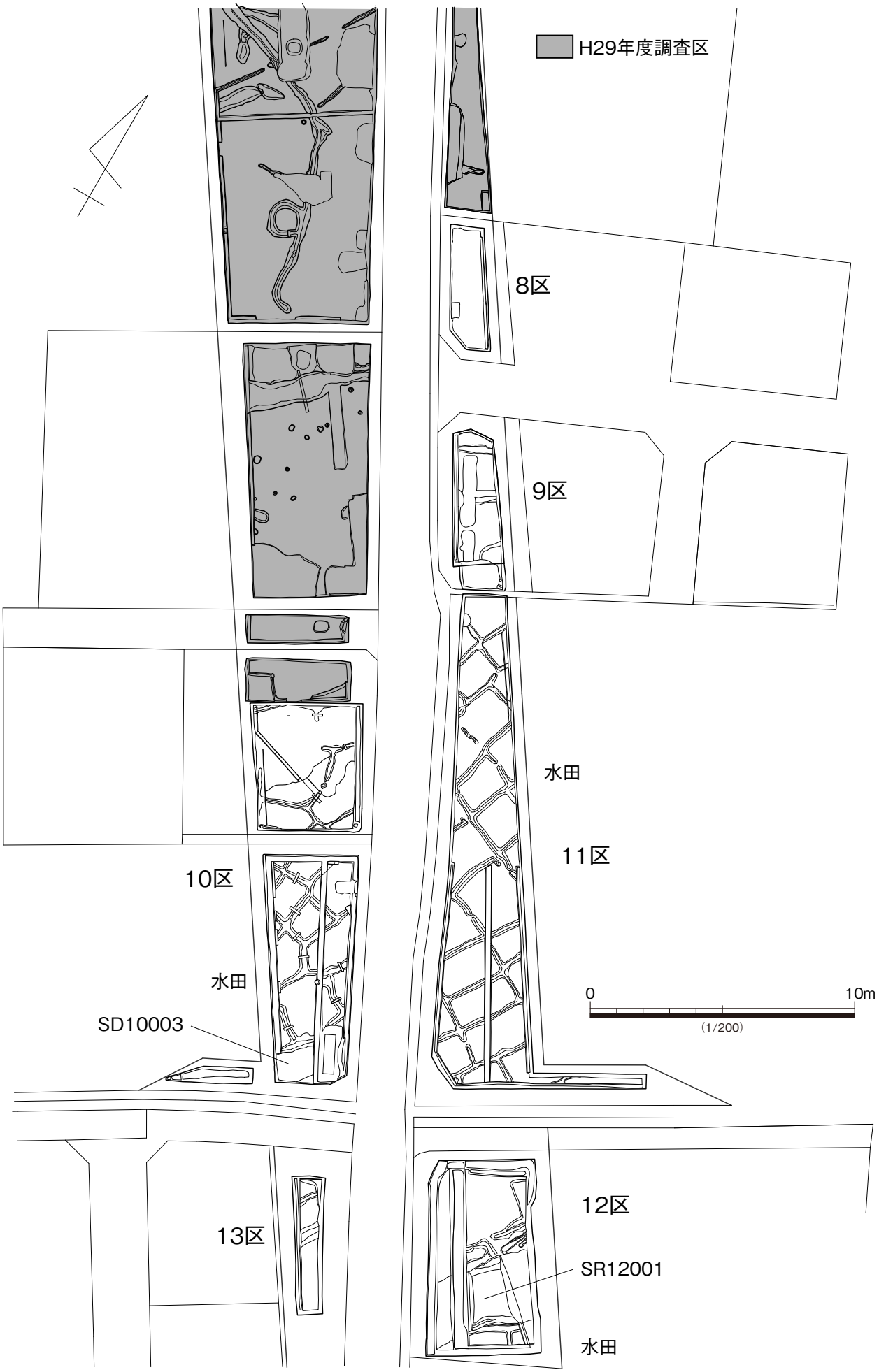


写真７　水田面付近蓄積状況

写真８　SR12001 完掘状況


H29年度調査区
8区
SD11001
(条里の坪境)
9区
SD11001
(条里の坪境)
11区
10区
SD10001
(条里の坪境)
13区
12区
0
10m
(1/200)

第５図　平面図（1 面）


H29年度調査区
8区
9区
水田
11区
10区
水田
SD10003
0
10m
(1/200)
13区
12区
SR12001
水田

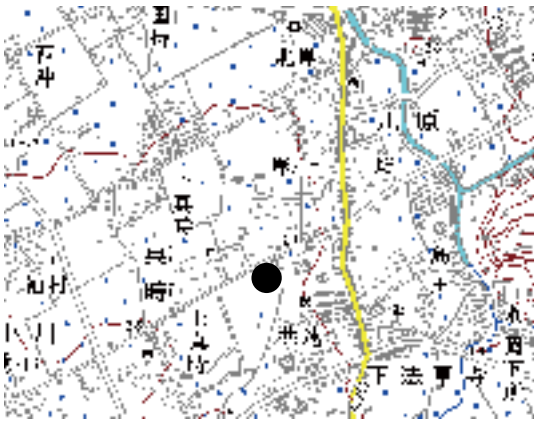
第６図　平面図（２面）

岸の上遺跡

国道 438 号整備事業に基づき、平成 30 年 11 月～平成 31 年 3 月まで発掘調査を行った。調査対象面積は 360 ㎡で、2 面の遺構面が存在する。調査工程の都合上、調査対象範囲を 2 分割し、これまでの調査区名を踏襲し、それぞれ 11・12 区として調査を行った。

調査の結果、飛鳥時代～奈良時代の建物跡、古墳時代の集落跡、弥生時代の集落跡などが確認された。

以下では遺構面ごとに 11・12 区合わせての状況をまとめる。



第 7 図　遺跡位置図（1/25,000）

1 面

飛鳥時代以降を中心とした年代の遺構面である。遺構面は表土及び床土直下で検出される。主な遺構は柱穴や溝であり、近世以降の耕作痕、地割の溝なども少数確認できる。遺構密度は、北側に向かうにつれ高く、南側においては柱穴等の建物を構成する遺構は少ない。11 区南部においては、主軸が南北方位をとる掘立柱建物（SB11001）が検出された。建物は西側の過年度調査区まで広がり、現時点では 2 × 3 間の総柱建物が復元できる。SB11001 柱穴出土遺物では、詳細な年代を特定することができないため、時期は明らかではないが、これまで検出された正方位の総柱建物と大きく時期を違えないものとして、7 世紀後半～8 世紀初頭の年代が想定できる。このほか、条里型地割と同一方向の柱穴や土坑も確認できる。このうち、条里型地割方向に並ぶ柱穴に切られる形で、性格不明遺構が検出されている（SX12001）。長楕円形の平面形を持つ土坑状の遺構であり、遺構の壁面に薄く粘土質の土を張り付けたような構造を持つことから、金属器製作のような作業にともなう遺構の可能性もあるが、出土遺物に金属は含まれず、時期の特定も困難である。

2 面

古墳時代以前の遺構が確認される。調査対象地の広い範囲で竪穴建物が確認できる。竪穴建物は、既往の調査で確認されていたものの続きも含め、計 11 棟確認できる。いずれも平面形態は方形であり、このうち 2 棟は竈を持つことが遺構により確認できる。建物の方位に統一性はなく、複数のグループに分かれる可能性がある。調査範囲の北側については、後世の削平が大きく、遺構の残存状況が悪いため、構造の特定は難しい。

SH12001 は、最も良好に構造が分かる事例である。建物の北辺に竈が残存し、完全な形ではないものの、竈の断面形状や排煙口の形態がある程度推定できる。また、床面上において、竈の周辺に残存状況の良い土師器が検出され、使用時の調理具などの配置を示す資料となる可能性が高い。出土する須恵器などから、建物は古墳時代後期後半のものと考えられる。

また、SH12007 は、方形の竪穴建物であるが、他の建物と埋土や遺構深度が大きく異なる。出土遺物も弥生土器が大半であり、須恵器を含まない。弥生土器の時期は弥生時代後期後半以降であり、弥生

時代の遺構は平成 25 年度に行われた今回調査範囲の東側の調査区でも確認されており、弥生時代後期に古墳時代後期以降ほどの継続性や規模を持たないにしろ、岸の上遺跡において集落形成が行われていたと考えられる。

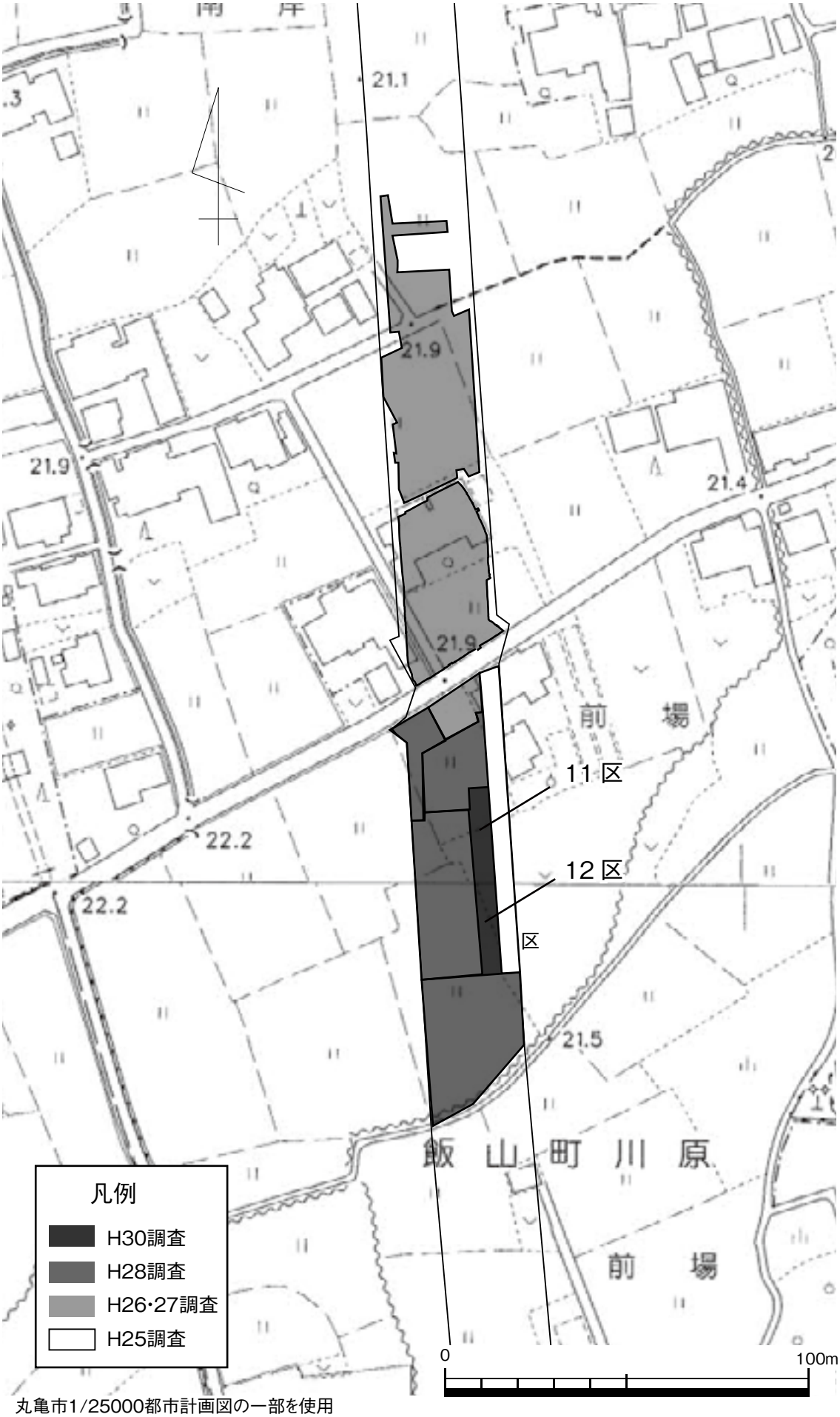
今回の調査成果は、既往の調査成果を補填するような形ではあったが、７世紀後半～８世紀初頭の建物の展開が確認されたほか、生産にかかわるような遺構が確認された。古墳時代後期以降の竪穴建物については、さらなる棟数が確認された。また、弥生時代の遺構が明確な形で確認されたことも大きな成果である。

写真９　11 区１面　完掘状況

写真 10　12 区２面　完掘状況

写真 11　SH12001　カマド検出状況

写真 12　SH12001　床面検出状況



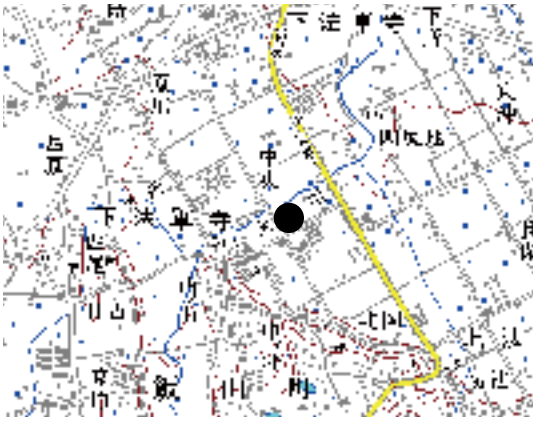
丸亀市1/25000都市計画図の一部を使用

第８図　調査区配置図

第 9 図　11 区・12 区　平面図

沖（おき）遺跡

沖遺跡は丸亀市飯山町上法軍寺に所在する。国道 438 号道路改良工事に伴い発掘調査を実施した。本遺跡は丸亀平野東部に位置し、大束川の南岸に立地する。周辺には北から西に 30° 傾く方向を基にした区画の条里型地割が広がる。約 300 m北には、古墳時代後期の竪穴建物跡や古代の掘立柱建物や水田跡を検出した名遺跡がある。



第 10 図　遺跡位置図（1/25,000）

平成 30 年度は道路東端の側溝部分について幅 2 mの調査区を設定して調査を実施した。調査区は北から 1-1 ～ 3 区と呼称した。いずれの調査区も耕作土の下には褐灰色砂質シルト層が堆積し、その下には黒褐色粘土層・黄色粘土層が堆積していた。褐灰色砂質シルト層の上面（1 面）・黒褐色粘土層上面（2 面）・黄色粘土層上面（3 面）で遺構検出を行った。1 面では古墳時代から中世の溝、柱穴跡、3 面では弥生時代の溝を検出した。なお、北方にある名遺跡では黒褐色粘土層上面で水田跡を検出したことから、沖遺跡ではこの土層に類似する粘土層上面（2 面）で遺構検出を行ったが、水田跡は検出されなかった。

弥生時代

1-1 区ほぼ中央と 1-3 区で各 1 条の溝状遺構が検出された。溝状遺構はいずれもほぼ東西方向で、幅 0.5 ～ 0.7 m、深さ 0.3 mである。

古墳時代

6 条の溝と旧河道が検出された。1-1 区北部で検出された溝は幅 3.7 m、深さ 0.9 mである。この溝は東側に隣接する丸亀市教育委員会調査区（平成 30 年 7 ～ 9 月に実施した丸亀市飯山南コミュニティーセンター建設に伴う発掘調査）に連続し、蛇行しながら東方に向かう。そのほか 1-1 区で 2 条、1-2 区で 1 条、1-3 区で 2 条の溝状遺構が検出された。これらは幅 0.5 m、深さ 0.3 m前後で土器細片が出土した。旧河道は 1-2 区南部・1-3 区北部で検出された。ほぼ東西方向に流れており、幅 10 m前後、深さ 1 m以

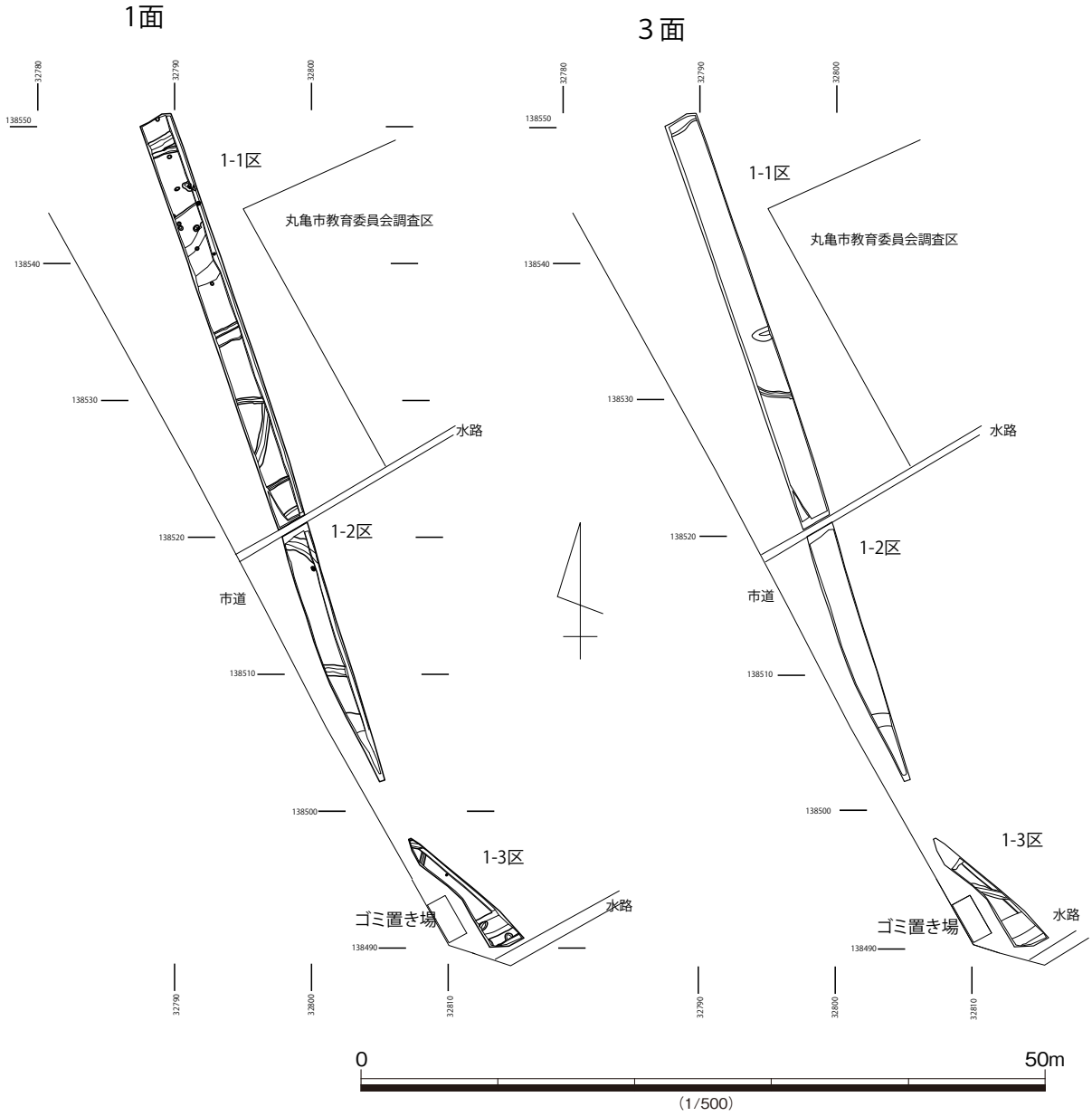
写真 13　溝状遺構　古墳時代

写真 14　1-1 区全景（1 面）
古墳時代・中世の遺構
東側は丸亀市教育委員会調査区

上である。出土遺物はみられなかったが、令和元年度に実施した西隣の調査区（3-2 区）では底面付近から少量の弥生時代後期の土器と古墳時代の須恵器片、埋土の上部からは古代の須恵器片が出土したことから、この河川は古墳時代後期に機能し、最終的古代に埋没したことがわかった。

中世

柱穴跡と溝状遺構が検出された。柱穴跡は各調査区で少量検出された。1-1 区では 10 個程度、1-2 区・1-3 区では各 1 個ずつ検出された。いずれも平面形は円形で、埋土は灰色砂質シルトである。溝状遺構は 1-1 区で 5 条、1-3 区で 2 条検出された。幅 0.3 ～ 1.4 m、深さ 0.2 ～ 0.4 mである。これらの溝は周辺に残る条里地割に平行する。これらの溝状遺構からの出土遺物は少量であったが、鎌倉時代末から室町時代初めの土器が出土したことから、周辺の条里地割は同時期にはすでに施工されていたことがわかった。

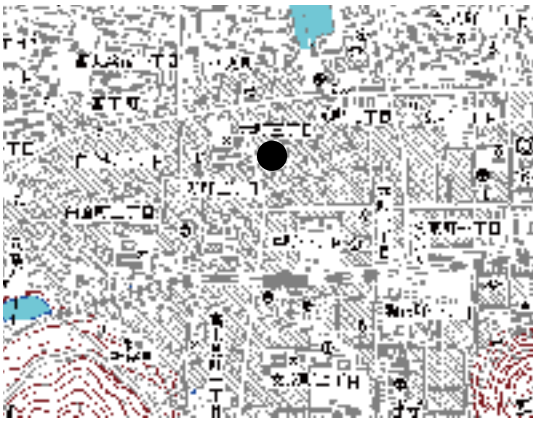


第 11 図　遺構配置図

本町二丁目遺跡（ほんまちにちょうめ）

本町二丁目遺跡は坂出市本町に所在する。都市計画道路事業富士見町線に伴い発掘調査を実施した。本遺跡は坂出市街地に位置し、海岸から 1.5 mほど南にある。かつての海岸沿いに形成された小高い浜堤に位置しており、すぐ北には江戸時代末に開発された干拓地が広がっていた。

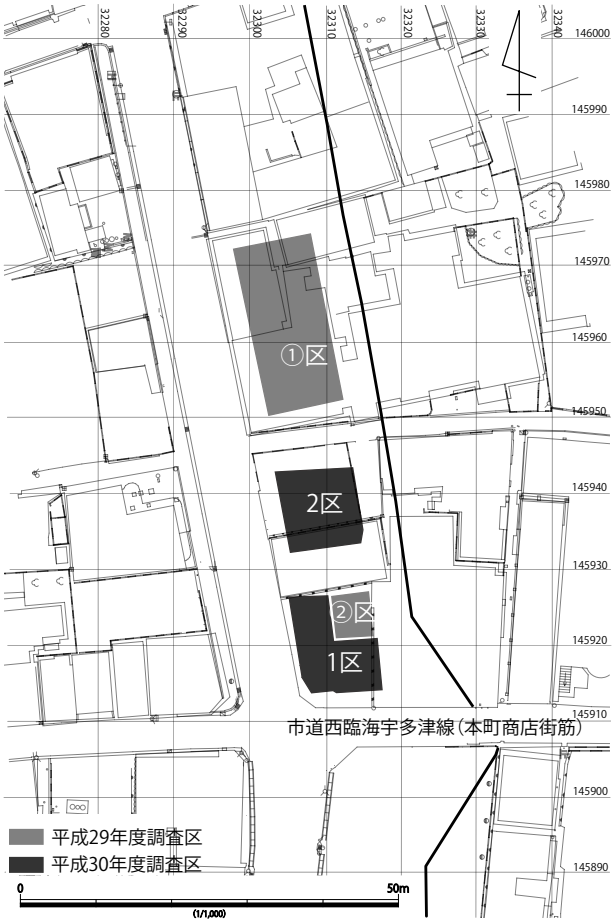
本遺跡の調査は平成 29 年 7 月、11 月、平成 30 年 2 月、平成 30 年 11 ～ 12 月に行った。平成 29 年度調査区を①・②区、平成 30 年度調査区を 1 区・2 区と呼称した。



第 12 図　遺跡位置図（1/25,000）

中世以前

北部の①区では現地表下 0.5 mの標高 0 ～ 1.2 m付近に浜堤を構成する浜堤堆積物が堆積していた。これは黄褐色砂礫で構成されており、断面 10 ～ 25cm ほどの厚さを 1 単位とする砂礫層が南の方向に 5° ほどの傾斜をもって下がり、これらが縞状に堆積していた。1 単位は中砂から中礫の粒径の砂礫が明

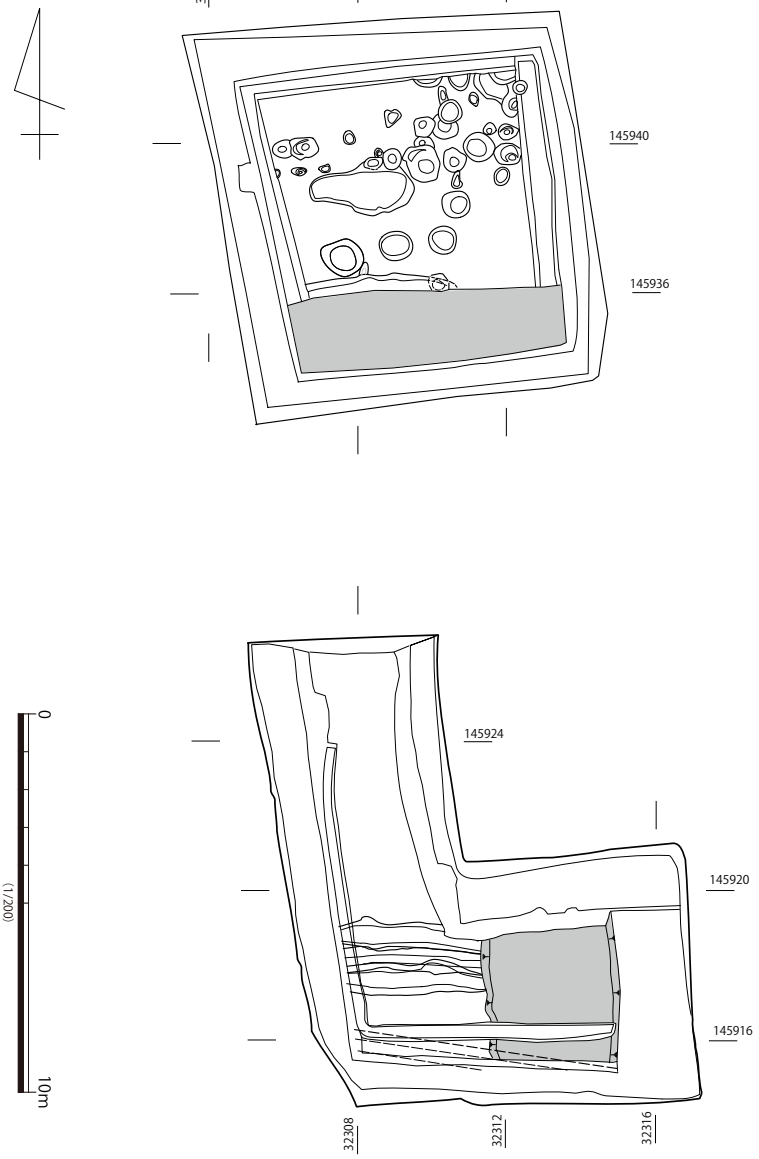


第 13 図　調査区の位置

写真 15　①区浜堤堆積物堆積状況

写真 16　2区全景
18 世紀後半から 19 世紀の遺構

瞭な級化構造をもっていた。これらの砂礫からは 13 ～ 15 世紀の土師質土器片や陶器片が出土した。なお、浜堤堆積物の上面では遺構は検出されなかった。



第 14 図　江戸時代の遺構

江戸時代から明治時代初期

これらの時期の遺構は南部の 2 区・1 区で検出された。17 世紀の陶磁器片や、18 世紀後半から 19 世紀の土坑跡や柱穴跡、溝が検出された。また、1 区南部では現地表下 1.2 m（標高 0.4 m）付近で、4 条の東西方向の溝状遺構が検出された。いずれも幅 0.4 ～ 0.7 m、深さ 0.2 ～ 0.4 mである。出土遺物は少量であるが、18 ～ 19 世紀のものである。これらの南側には現在も東西に走る市道がある。この道は江戸時代末に作成された「高松藩軍用絵図　阿野郡北絵図」（写図が公益財団法人鎌田共済会郷土博物館に所蔵されている）などに描かれており、江戸時代にも宇多津から金山の北麓に向かう主要な道であったことがうかがわれる。これらの溝状遺構はこの道に平行して走ることから、道の側溝の可能性が高い。また、これらの溝状遺構の検出面の標高は 0.4 mと低いことから、この付近は浜堤の下部に当たると考えられる。

これらの調査結果から、本町二丁目遺跡の位置する浜堤は①区から南に向かって下がっており、13 ～ 15 世紀ごろ活発に形成され、浜堤上は 17 世紀以降、生活域になったことがわかった。

2　普及・啓発事業

（1） 展示

① 香川県埋蔵文化財センターでの展示

	タイトル	場所	会期
1	遺跡・遺物からみた香川の歴史	第1展示室	4月1日～3月31日
2	讃岐国府跡を探る 9	第2展示室	4月1日～5月15日
3	平成29年度調査速報展	第2展示室	5月21日～7月13日
4	発掘でわかった暮らしの中の木の道具	第2展示室	7月23日～9月25日
5	第4回四地区埋蔵文化財センター発掘へんろ展　四国の彩り	第2展示室	10月3日～12月14日
6	讃岐国府跡を探る 10	第2展示室	1月4日～3月31日

第９表　展示一覧

一般			団体										合計
			団体数					構成員数					
大人	子ども	計	一般	高校生	小・中学生	幼稚園	計	一般	高校生	小・中学生	幼稚園	計	
1,066	124	1,190	18	0	4	0	22	371	0	260	0	631	1,821

第 10 表　入館者数一覧　　単位：人

② 香川県埋蔵文化財センター以外の施設での展示

	タイトル	場所	会期	観覧者数（人）
1	讃岐国府跡を探る 9	高松市讃岐国分寺跡資料館	5月22日～7月8日	654
2	讃岐国府跡を探る 9	三豊市宗吉かわらの里展示館	7月11日～8月5日	675
3	讃岐国府跡を探る 9	府中湖カヌー研修センター	10月7日	7,500
4	讃岐国府跡を探る 9	坂出市郷土資料館	10月30日～12月2日	158
5	讃岐国府跡を探る 9	綾川町立生涯学習センター	1月29日～2月17日	3,848
6	第4回四国地区埋蔵文化財センター 発掘へんろ展　四国の彩り	松山市考古館	4月28日～7月8日	5,329
		高知県埋蔵文化財センター	7月16日～9月21日	1,294
		徳島県立埋蔵文化財総合センター	1月11日～3月17日	2,300
	合　　計			21,758

第 11 表　センター外展示一覧

（2） 現地説明会

	内容	実施日	対象	見学者数　（人）
1	城泉遺跡現地説明会	9月22日	一般	88
2	讃岐国府跡現地説明会	2月10日	一般	266
3	讃岐国府跡調査・平成30年度開法寺跡発掘調査報告会	3月17日	一般	90
合　　計				444

第 12 表　現地説明会・地元説明会一覧

（3） 講師の派遣

① 体験講座など

	依頼者	実施日	場所	内容	対象	参加者数（人）
1	大野原町中央公民館	7月21日	大野原ふれあい学芸館	勾玉作り	中学生	5
2	大野原町中央公民館	7月28日	大野原ふれあい学芸館	勾玉作り、火起こし	中学生	3
3	大野原町中央公民館	8月18日	大野原ふれあい学芸館	勾玉作り、火起こし	小・中学生	18
4	むきばんだ史跡公園	9月22日	鳥取県立むきばんだ史跡公園	アンギン編み	一般	15
5	まんのう町教育委員会	11月25日	琴南ふるさと資料館	勾玉づくり、拓本	一般	184
合　　計						225

第13表　体験講座への講師派遣一覧

② その他

	依頼者	実施日	内容
1	快天山古墳を守る会	4月24日	講演
2	広島大学総合博物館	5月19日	講演
3	勝賀城跡保存会	6月2日	講演
4	讃岐国分寺跡資料館友の会	6月9日	講演
5	三豊史談会	6月17日	講演
6	香川県立中央病院むつみ会	7月7日	講演
7	綾歌神社総代会	7月8日	講演
8	勝賀城跡保存会	7月21日	講演
9	高松市三谷コミュニティーセンター	7月22日	講演
10	今治市教育委員会	9月24日	講演
11	府中湖水のフェスティバル実行委員会	10月6日	史跡案内
12	塩江地区コミュニティ協議会	10月28日	講演
13	府中壮成大学	11月8日	講演
14	香川県観光協会	11月17日	史跡案内
15	高松大学	11月19日　12月8・17日 1月28日　2月18日　3月18日	講演
16	府中市観光協会	11月20日	史跡案内
17	高松市文化財保護協会	11月24日	講演
18	飯山南コミュニティーセンター	12月20日	講演
19	三豊市文化財保護協会	12月21日	講演
20	丸亀市蓬莱歴史研究会	1月15日	講演
21	丸亀市の文化を考える会	2月9日・13日	講演
22	（公財）徳島県埋蔵文化財センター	2月10日	講演
23	丸亀市中央図書館	3月10日	講演

第14表　講演等への講師派遣一覧

（4） 体験講座

7月13日～1月27日に体験講座を行った。

実施日	タイトル	内容	参加者数（人）
7月24日・25日、10月4日	古代をたいけんしてみよう	土器作り、編みかご作り、アンギン編み	61
7月30日		遺跡見学（讃岐国府跡、新宮古墳）	7
1月27日	「まいぶんボランティア」による「南海道」をテーマとした他団体との交流事業	南海道を歩く	23
合　　計			91

第15表　体験講座実施事業一覧

（5） 発掘体験講座

12 月 8 日に発掘体験講座を行った。

実施日	タイトル	内容	参加者数（人）
12 月 8 日	遺跡に触れてみよう！～飯山町岸の上遺跡～	発掘体験講座	5
合　　計			5

第 16 表　発掘体験講座

（6） 考古学講座

専門職員が講師を務める考古学講座を 4 回開催した。

回	実施日	タイトル	講師	参加者数（人）
1	7 月 7 日	讃岐の近世瓦	竹内裕貴	18
2	9 月 8 日	香川の大名墓所－生駒・山崎・京極編－	古野徳久	58
3	11 月 24 日	火をおこす	蔵本晋司	13
4	1 月 12 日	丸山窯跡再考	森下英治	25
合　　計				114

第 17 表　考古学講座

（7） まいぶんボランティア活動

まいぶんボランティアは、事業の記録撮影や普及事業の補助などを行った。24 名が登録し、22 回、延べ 103 名が活動に参加した。

（8） 新聞記事掲載

四国新聞に「ディープＫＡＧＡＷＡ　アーケオロジー（考古）編」として、計 20 回の連載を行った。埋蔵文化財センターが平成 29 年度に発掘または報告書を刊行した遺跡を紹介する「埋文調査最前線！」(12 回)、「第 4 回四国地区埋蔵文化財センター発掘へんろ展」の内容を紹介する「発掘へんろ展から」(4 回)、讃岐国府跡探索事業に関連した内容「讃岐国府の調査から」(4 回) で構成した。

（9） 資料の貸出・利用

区分	学校・大学	研究会・同好会	教育委員会・博物館・その他公共団体	出版社・新聞社・その他民間企業	個人・他	合計
遺物	1	0	7	0	50	58
写真・パネル	1	0	9	2	6	18
レプリカ・模型	0	0	0	0	0	0
合計	2	0	16	2	56	76

第 18 表　資料貸出・利用一覧（数字は件数）

(10) 職場体験学習・インターンシップ

	団 体 名	期 間	内 容	参加人数（人）
1	香川県庁インターンシップ	8 月 18 日	職場体験	3
2	高松短期大学	8 月 22 日～ 24 日	職場体験	1
3	坂出市立白峰中学校	10 月 19 日～ 21 日	職場体験	3
合 計				7

第 19 表　職場体験学習・インターンシップ一覧

(11) 刊行物

①『香川県埋蔵文化財センター年報　平成 29 年度』

②『いにしえの讃岐』98 号～ 101 号

(12) ホームページ

ホームページ（http://www.pref.kagawa.lg.jp/maibun/）の更新を随時行った。

トップページビュー数　　20,990

(13) 資料の寄贈

高嶋保則所蔵資料　　一件 12 点（平成 30 年 4 月）

３　讃岐国府跡探索事業・讃岐国府跡探究事業

「香川県文化芸術文化振興計画」に基づき平成 21 年度から開始した讃岐国府跡探索事業は、平成 29 年度に現地調査を終了し、平成 30 年度はこれまでの成果をまとめた報告書を刊行した。平成 30 年度からは新たに讃岐国府跡探究事業を 3 年計画で実施する。主な調査事業として讃岐国府跡の遺構内容の確認を目的とした発掘調査を実施した。讃岐国府跡を活用した情報発信による主な広報活動事業としては、まち歩きや講座を開催した。

平成 30 年度は、讃岐国府跡や開法寺跡など古代の遺構の広がりを確認するため開法寺池の北側と南側で発掘調査を実施した。調査の結果、開法寺池の南側で古代の柱穴や溝が見つかり、古代の遺構が開法寺池の南側に広がることが確認できた。

（1）　ボランティア活動

・登録人数　　24 人

・延べ人数　　70 人

（2）　地域との交流

内　　容	実施日	参加人数
第 20 回　水のフェスティバル in 府中湖「道真の里を歩く」	10 月 6 日	100 人
第 20 回　水のフェスティバル in 府中湖　展示「讃岐国府跡を探る 9」	10 月 7 日	7,500 人

第 20 表　地域との交流一覧

（3）　情報発信

	内　　容	回　数
1	ホームページへの記事掲載	4 回
2	情報誌「いにしえの讃岐」への記事掲載	1 回
3	新聞への連載記事掲載	4 回
4	ＫＢＮ出演	1 回
5	四国新聞への記事掲載	1 回
6	読売新聞への記事掲載	1 回

第 21 表　情報発信一覧

（4） 関連行事

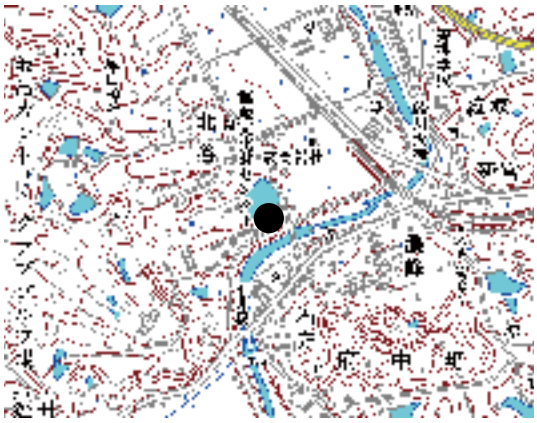
	行　事　名	会　場	実　施　日	参加人数
1	展示「讃岐国府跡を探る 9」	香川県埋蔵文化財センター	4 月 1 日～ 5 月 15 日	377 人
2	展示「讃岐国府跡を探る 10」	香川県埋蔵文化財センター	1 月 4 日～ 3 月 31 日	424 人
3	出張展示「讃岐国府跡を探る 9」	高松市讃岐国分寺跡資料館	5 月 22 日～ 7 月 8 日	654 人
4	出張展示「讃岐国府跡を探る 9」	三豊市宗吉かわらの里展示館	7 月 11 日～ 8 月 5 日	675 人
5	出張展示「讃岐国府跡を探る 9」	坂出市郷土資料館	10 月 30 日～ 12 月 2 日	158 人
6	出張展示「讃岐国府跡を探る 9」	綾川町立生涯学習センター	1 月 29 日～ 2 月 17 日	3,848 人
7	出張講座　高松市讃岐国分寺跡資料館友の会「讃岐国府の最新発掘調査成果」	高松市讃岐国分寺跡資料館	6 月 9 日	33 人
8	「伊予国府発見へ向けて」	今治市総合福祉センター	9 月 24 日	187 人
9	さぬきアカデミー「歴史の里　府中を歩く」	讃岐国府跡周辺	11 月 17 日	31 人
10	府中市観光協会	讃岐国府跡周辺	11 月 20 日	16 人
11	平成 30 年度　市民文化財教室	サンクリスタル高松	11 月 24 日	30 人
12	発掘調査現地説明会	讃岐国府跡発掘調査地	2 月 10 日	266 人
13	シンポジウム「讃岐国府を語る　讃岐国府跡調査地　平成 30 年度開法寺跡調査地報告会」	坂出市民ふれあい会館	3 月 17 日	90 人

第 22 表　関連行事一覧

（5） 発掘調査

讃岐国府跡（さぬきこくふ）　第 36 次調査

周知の埋蔵文化財包蔵地「讃岐国府跡」の近接地において、「讃岐国府跡」に関連する遺構・遺物の有無の確認を目的として試掘調査を実施した。調査期間は平成 30 年 11 月 1 日～平成 31 年 3 月 4 日、調査面積は 142㎡、出土遺物は、須恵器、土師器、瓦等コンテナ 9 箱である。開法寺池の北側を開法寺北地区（36-1 ～ 3 区）、同南側を開法寺池南地区（36-4 ～ 6 区）と呼称する。



第 15 図　遺跡位置図（1/25,000）

開法寺池北地区（第 2・3 図）

36-2 区では、14.8m で基盤層（C 層）を検出し、その上位に粗砂とシルト～粘土層が交互に厚く堆積する B 層を確認した。1・3 区では調査区壁崩落等の危険性もあり基盤層に到達することはできなかったが、15.4m まで掘り下げた 1 区でも B 層の厚い堆積は確認された。B 層に含まれるのは古代の遺物が中心であるが、12 ～ 13 世紀の遺物が少量認められるため、B 層は古代末～中世初頭の堆積と考えられる。

36-2 区の基盤層上面の標高は東方の低地帯 2 周辺の標高に近いため、開法寺池谷最深部は開法寺池北地区付近にあると考えられる。この点は、開法寺伽藍の西方、すなわち開法寺池の南東部分が安定して利用されていたことを推測させる。なお、開法寺池北地区の北側丘陵から 2 区基盤層までは標高が急激に下がるため、低地部は人為的に形成された可能性がある。

B 層は 12 ～ 13 世紀の遺物を含むが、8 ～ 11 世紀の須恵器や土師器、黒色土器、瓦といった古代の遺物のほうが多い。低地が機能していた時期は 8 世紀にさかのぼりうる。古代の遺物の存在から、谷上流、または北側の丘陵に古代の遺構が存在する可能性が考えられる。遺物はさほど磨滅していないため、遺構の所在は近隣であろう。比較的、9 ～ 10 世紀（開法寺東方地区 4-1 ～ 4-3 期）の遺物が目立つことから、開法寺東方地区の大型建物群が出現し継続する期間に、当該地区も利用されていたことが推測される。

開法寺池南地区（第 4・5 図）

36-4・36-5 区では、丘陵緩斜面に設けられた平坦面や、9 世紀から 11 世紀前半にかけての溝、柱穴を検出した。また、11 世紀後半～ 12 世紀前半、14 ～ 16 世紀（E・F 層）と段階的な盛土も確認した。6 区でも調査区北端で平坦面を確認しているが、その上位に堆積する K 層は 4･5 区の盛土と土質が異なっており、K 層の性格の特定が難しい。わずかに出土している土師質土器小片から K 層を 11 世紀後半～ 12 世紀前半とするならば、平坦面はそれ以前の形成となる。

36-4・36-5 区で検出された平坦面や 9 世紀～ 11 世紀前半の柱穴、溝は、開法寺跡を含めた讃岐国府跡が継続する期間内にあたる。よって、これらの遺構は讃岐国府跡に関連する施設を構成するものと考えられる。柱穴や溝は、より北方に広がる蓋然性が高く、現在の開法寺池南半部にも讃岐国府跡関連する施設が展開することを示唆する。

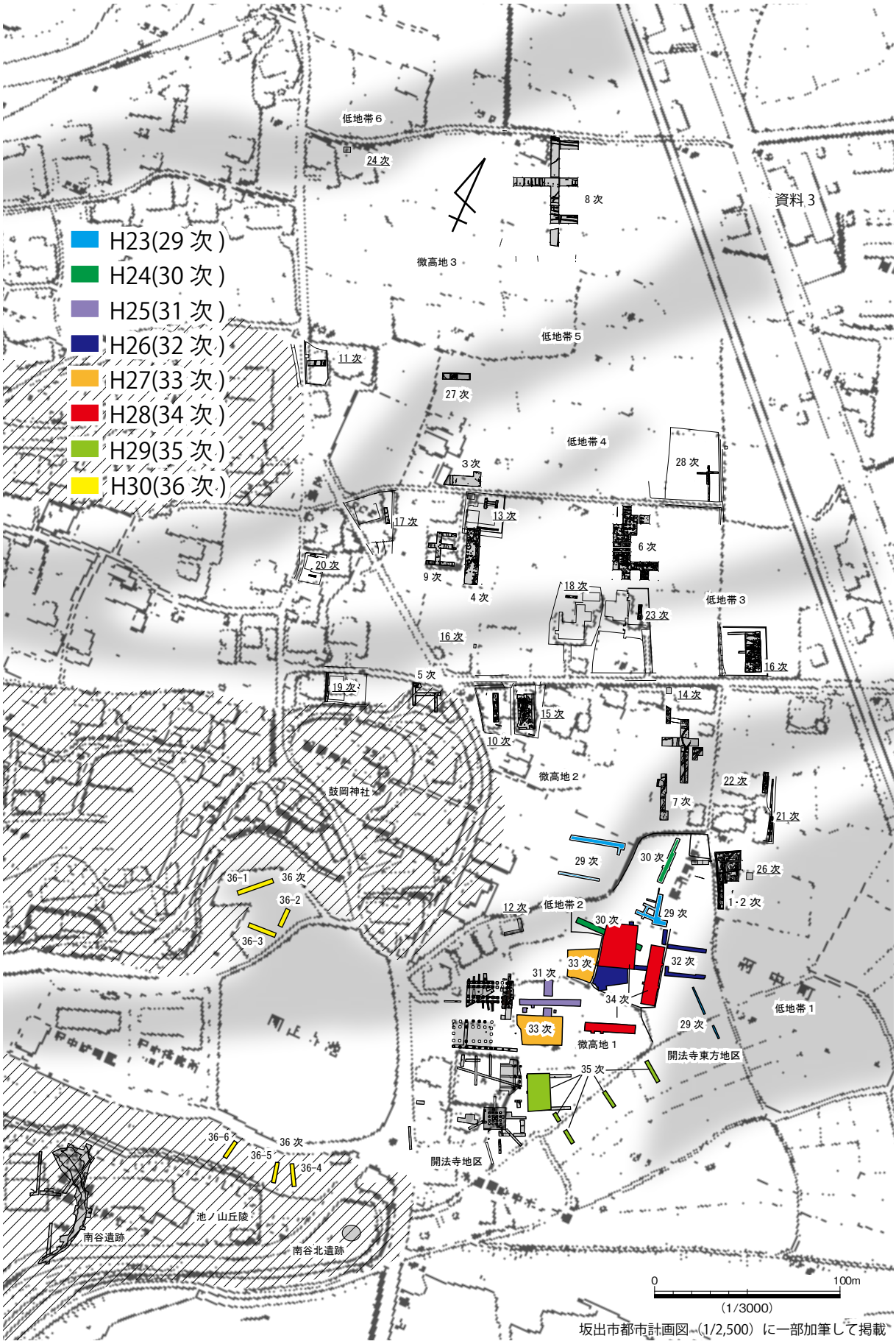
さらに、36-6 区の平坦面形成が 11 世紀前半以前になるのであれば、讃岐国府跡継続期間内の遺構はさらに西方に伸びると推測される。

古代末～中世後半の盛土である E・F 層も含めて、出土する遺物の大半は 8 ～ 11 世紀のものであるため、平坦面の形成は 8 世紀にまでさかのぼる可能性もある。また、出土量では 9 ～ 10 世紀の遺物が多く、未調査地も含めると池ノ山丘陵北斜面では当該期の遺構が増加するとも考えられる。そうであれば、9 ～ 10 世紀は讃岐国府跡東方地区の充実期（4-1 ～ 4-3 期）であり、それと連動して当丘陵の利用が進んだことになる。

過去に調査された池ノ山丘陵尾根上の南谷遺跡や丘陵先端部の南谷北遺跡でも、8 世紀から中世にかけての溝や遺物が確認されている。池ノ山丘陵の頂部も北側緩斜面と同様、讃岐国府跡に関連する施設を配置するために利用されたものと考えられる。

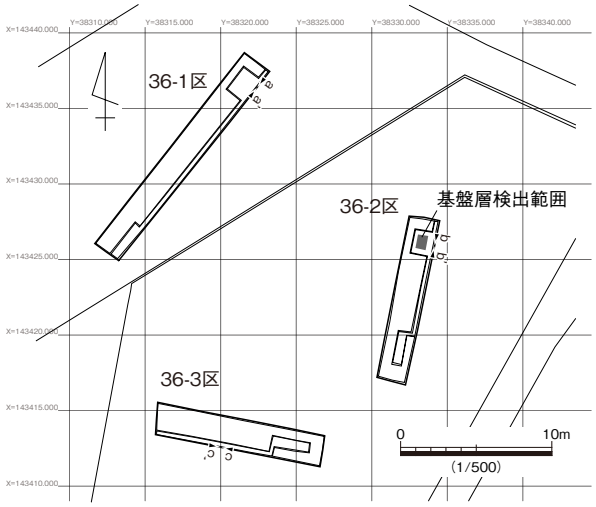
まとめ

開法寺池北地区、開法寺池南地区では、ともに、讃岐国府跡継続期間と同時期の遺物が出土した。開法寺池南地区では同時期の明確な遺構を検出し、開法寺池北地区においても人為的な低地形成を示唆する材料を得た。また、開法寺池の堤体内では鴟尾が採集されていることから、開法寺池北地区、開法寺池南地区、開法寺池を含めた範囲について、周知の埋蔵文化財包蔵地「讃岐国府跡」の範囲に含めることとなった。



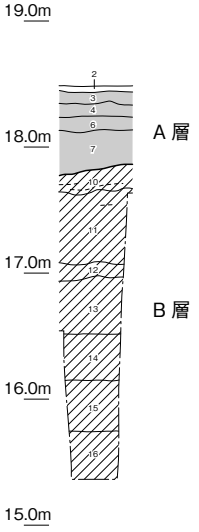
坂出市都市計画図（1/2,500）に一部加筆して掲載

第 16 図　讃岐国府跡調査地



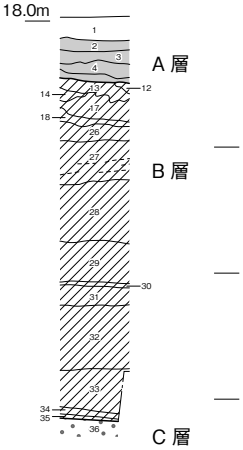
A 層	14c 以降の盛土・鋤床 土師質土器足釜 (中世後半、少量) 土師質土器（近世以降、少量） 須恵器・土師器・瓦（古代、少量）
B 層	12 ～ 13c の堆積層 須恵器・土師質土器（12 ～ 13c、少量） 須恵器・土師器・瓦等（古代）
C 層	基盤層 遺物なし

36-1 区 南東壁断面図（a-a' ）



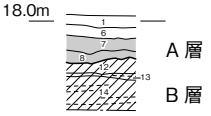
2　2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト層　［鋤床］
3　10YR7/3 にぶい黄橙色砂質シルト層
4　2.5Y6/1 黄灰色砂質シルト層
6　10YR6/1 褐灰色～ 10YR6/3 にぶい黄橙色粗砂層
　径 0.5 ～ 1.0cm の 10YR6/6 明黄褐色シルトブロック含む
7　2.5Y6/2 灰黄色シルト質砂層
　径 0.5 ～ 1.0cm の 2.5Y6/1 黄灰色シルトブロック含む、下面にマンガン沈着
※3～7 層　［中世後半以降の盛土］
10　5B6/1 青灰色粘土層
　10YR6/2 灰黄褐色粗砂層をラミナ状に含む
11　5B5/1 青灰色粘土層
　5B5/1 青灰色粗砂をラミナ状に含む
12　10YR6/6 明黄褐色粗砂層
13　N4/ 灰色粘土層
　径 0.1 ～ 0.3cm の砂粒を若干含む、下位ほど砂粒多い、有機物含む
14　N4/ 灰色粘土層
　径 0.1 ～ 0.3cm の砂粒を多量に含む、13 層との境は漸移的
15　N4/ 灰色粘土層
16　N3/ 暗灰色シルト層　ヨシ？などの有機物を多量に含む
※10 ～ 16 層　［12 ～ 13c の堆積層］

36-2 区 東壁断面図（b-b' ）



1　10YR6/1 褐灰色粘土層　［鋤床］
　2.5Y8/1 灰白色粗砂を部分的に多量に含む
2　5Y5/1 灰色粘土質シルト層　［作土？］
　径 0.1 ～ 0.3cm の砂粒を多量に含む
3　10YR6/2 灰黄褐色シルト質粘土層［鋤床？］
　径 0.1 ～ 0.3cm の砂粒を含む
4　10YR6/2 灰黄褐色砂質シルト層　［盛土］
　径 0.5 ～ 2.0cm の N6/ 灰色粗砂ブロックを多量に含む
12　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質砂層
　径 0.5 ～ 5.0cm の 10YR6/6 明黄褐色～ N6/ 灰色シルト質粘土ブロック含む
13　10YR8/6 黄橙色粗砂層
　径 0.5 ～ 1.0cm の N5/ 灰色粘土質ブロックを少量含む
14　10YR6/1 褐灰色粗砂層
　径 0.5 ～ 2.0cm の 10YR5/6 黄褐色粘土質シルトブロックを含む
17　10YR5/4 にぶい黄褐色～ 5B6/1 青灰色粘土層
　径 8.0cm の黄褐色粗砂ブロックを 1 か所含む
18　10YR5/4 にぶい黄褐色～ 10YR5/6 黄褐色シルト質砂層
　径 0.5 ～ 3.0cm の N5/ 灰色シルト質粘土ブロック含む
※12 ～ 14・17・18 層　［中世後半の盛土］
26　5B6/1 青灰色粘土層
27　5B7/1 明青灰色粗砂層
　部分的に 7.5YR5/6 明褐色化
28　5B5/1 青灰色粘土層
　径 0.1 ～ 0.3cm の砂粒を少量含む、下位ほど砂粒多い
29　5B5/1 青灰色粗砂層
　全体的に 5B5/1 青灰色粘土が混じる
30　10YR6/4 にぶい黄橙色粗砂層
31　5B5/1 青灰色粘土層
　径 0.1 ～ 0.3cm の砂粒を多量に含む、下位ほど砂粒多い
32　5B4/1 暗青灰色粘土層
　径 0.1 ～ 0.3cm の砂粒を少量含む、下位ほど砂粒多い
33　N3/ 暗灰色粘土層
34　N2/ 黒色粘土層　有機物を若干含む
35　7.5Y4/1 灰色粗砂層
※26 ～ 35 層　［12 ～ 13c の堆積層］
36　5Y5/2 灰オリーブ色粗砂層　しまり強い［基盤層］

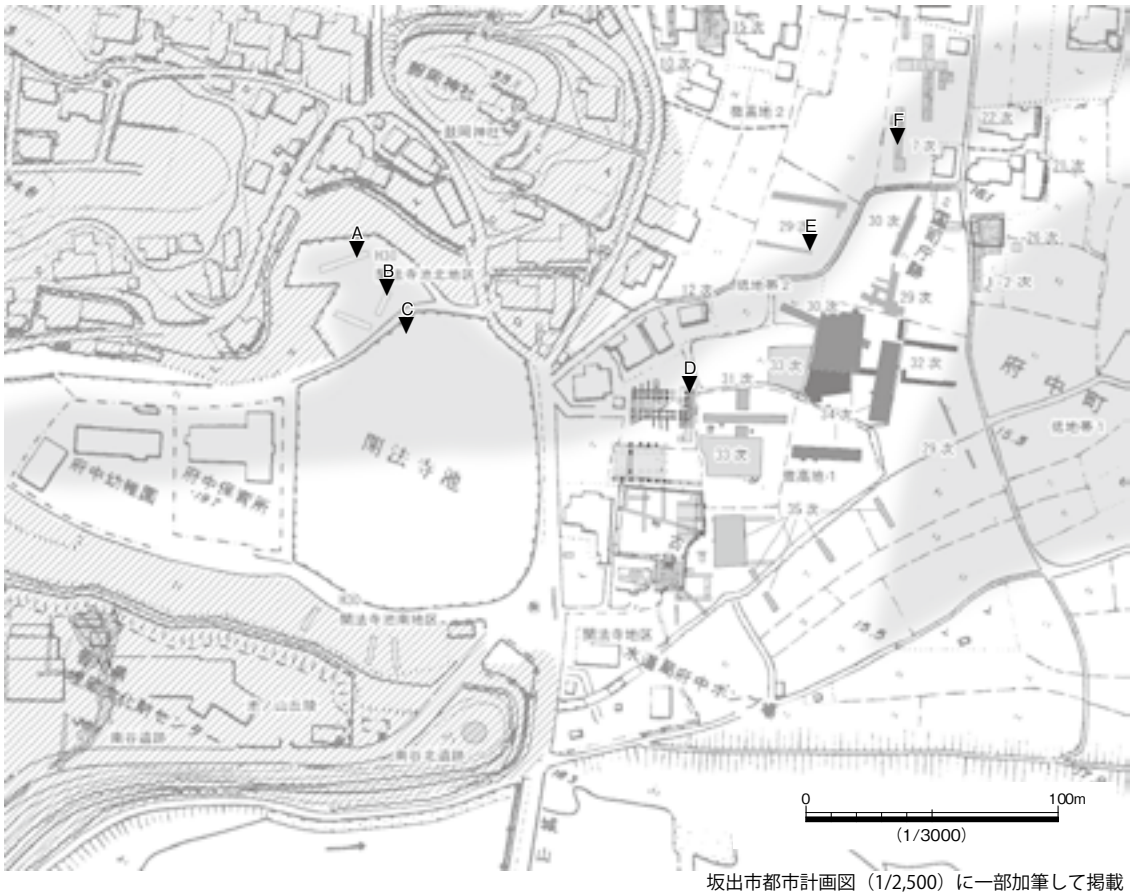
36-3 区　南壁断面図（c-c' ）



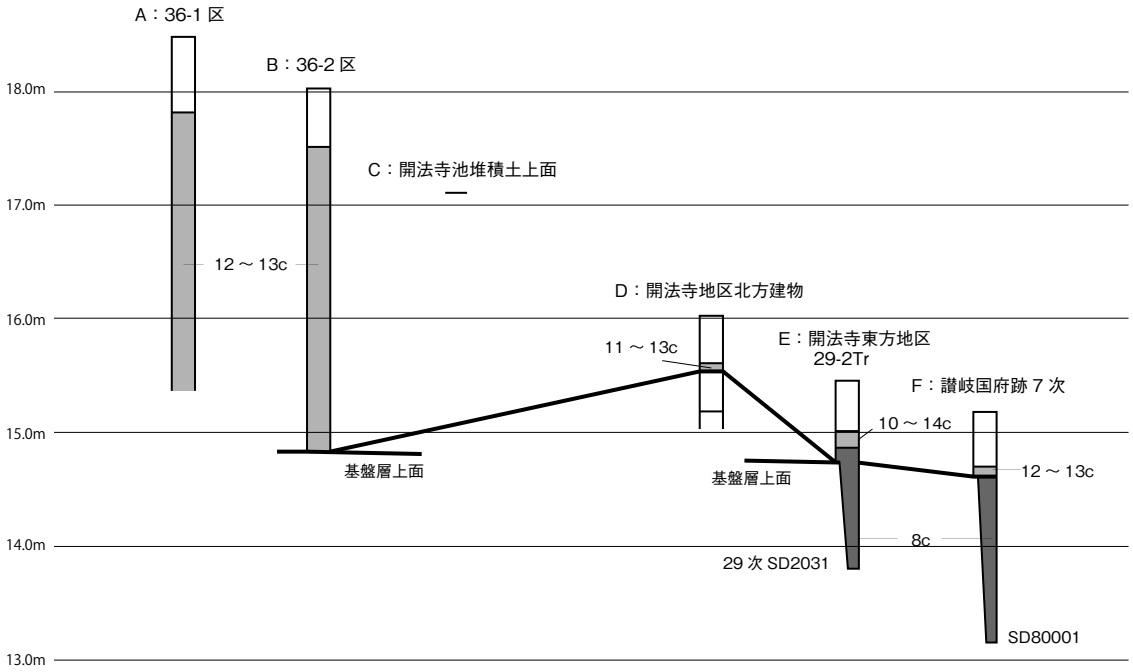
1　2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト層　［鋤床］
6　5Y5/1 灰色砂質シルト層　［鋤床？］
7　2.5Y6/1 黄灰色粘土質シルト層　［盛土］
　全体的に粗砂を少量含む
8　10YR7/6 明黄褐色粘土質シルト層［盛土］
　全体的に粗砂を少量含む
12　7.5YR6/8 橙色砂質シルト層　全体的に粗砂含む
13　10YR7/6 明黄褐色細砂層　ラミナ状の堆積
14　10YR7/4 にぶい黄橙色粗砂層　ラミナ状の堆積
※12 ～ 14 層　［中世後半以降の堆積層］

0　2m
(1/60)

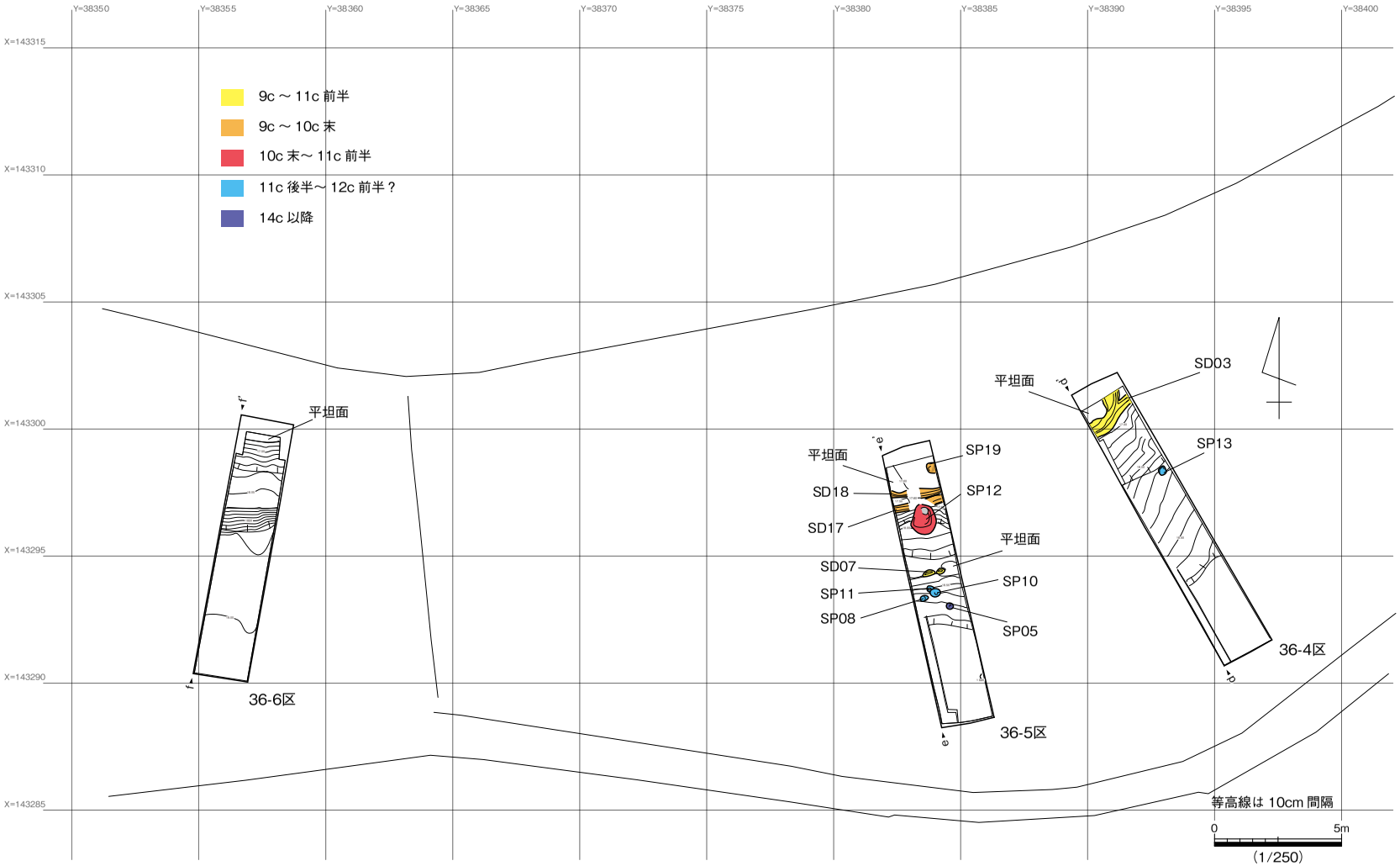
第 17 図　36-1 ～ 36-3 区　平・断面図



坂出市都市計画図（1/2,500）に一部加筆して掲載

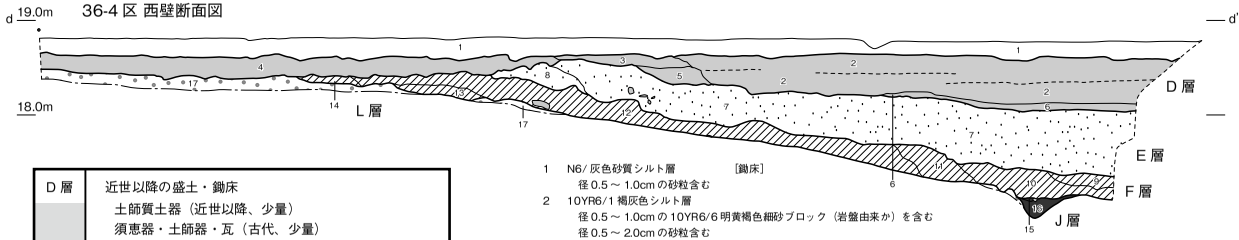


第 18 図　低地帯２周辺柱状図



第 19 図　36-1 ～ 31-6 区　平面図

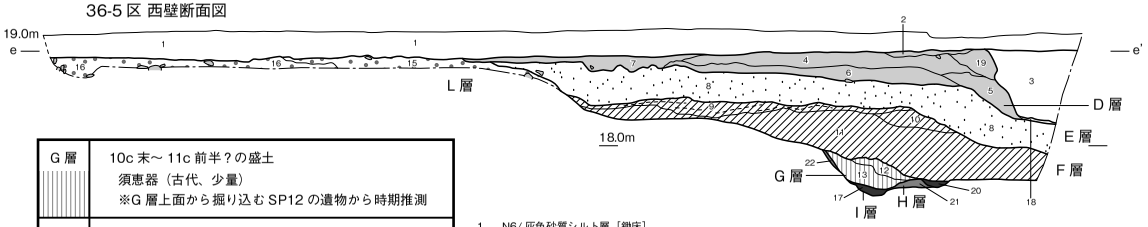
36-4 区 西壁断面図



D 層	近世以降の盛土・鋤床 土師質土器（近世以降、少量） 須恵器・土師器・瓦（古代、少量）
E 層	14 ～ 16c の盛土 土師質土器足釜（少量） 須恵器・土師器・瓦等（古代）
F 層	11c 後半～ 12c 前半の盛土 須恵器・土師質土器（11c 後半～ 12c 前半、少量） 須恵器・土師器・緑釉陶器・瓦等（古代）

1　N6/ 灰色砂質シルト層　［鋤床］
径 0.5 ～ 1.0cm の砂粒含む
2　10YR6/1 褐灰色シルト層
径 0.5 ～ 1.0cm の 10YR6/6 明黄褐色細砂ブロック（岩盤由来か）を含む
径 0.5 ～ 2.0cm の砂粒含む
3　10YR6/1 褐灰色砂質シルト層
径 0.5 ～ 1.0cm の 10YR6/6 明黄褐色細砂ブロック（岩盤由来か）を多量に含む
径 0.5 ～ 1.0cm の砂粒含む　褐鉄鉱を少量含む
4　10YR6/3 にぶい黄橙色砂質シルト層
N6/ 灰色砂質シルト層（1 層）・2.5Y6/4 にぶい黄色粘土質シルト（基盤層）をまだらに含む
5　10YR5/1 褐灰色砂質シルト
径 0.2 ～ 0.5cm の砂粒含む　褐鉄鉱を少量含む
※2 ～ 5 層　［近世以降の盛土］
6　10YR5/1 褐灰色砂質シルト層
7　10YR6/2 灰黄褐～ 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト層
径 0.5 ～ 1.0cm の砂粒含む　褐鉄鉱を少量含む
径 0.2 ～ 0.3cm の 2.5Y6/1 黄灰色シルトブロック多量に含む
砂粒の含有は均一ではない　上位から流れてくるような堆積は認められない［中世後半の盛土］
8　10YR4/1 褐灰色砂質シルト層　褐鉄鉱多量に含む　［中世後半の盛土］
9　10YR6/2 灰黄褐色砂質シルト層
径 0.1 ～ 0.2cm 砂粒を含む　褐鉄鉱多量に含む　7 層に近似する
10　10YR5/1 褐灰色砂質シルト層
径 0.2 ～ 0.5cmm 砂粒を含む　褐鉄鉱多量に含む
11　10YR6/1 褐灰色砂質シルト層
径 0.1 ～ 0.3cm 砂粒を含む　褐鉄鉱多量に含む
12　10YR6/2 灰黄褐色砂質シルト層
径 0.2 ～ 0.5cm 砂粒を含む　褐鉄鉱多量に含む
13　2.5Y6/2 灰黄色シルト層　褐鉄鉱に含む
14　2.5Y6/1 黄灰色シルト層
※8 ～ 14 層　［11c 後半～ 12c 前半の盛土］
15　2.5Y6/3 にぶい黄色シルト層　ブロック状の層
16　10YR5/1 褐灰色砂質シルト層　径 0.2 ～ 0.3cm の砂粒を含む　褐鉄鉱に含む［SD03］
10 層に近似するが 10 層に比べてシルト質が強い
17　［基盤層］

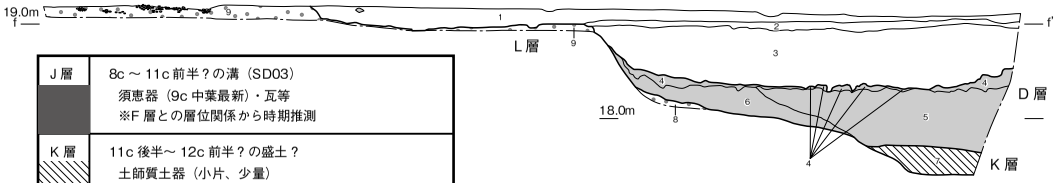
36-5 区 西壁断面図



G 層	10c 末～ 11c 前半？の盛土 須恵器（古代、少量） ※G 層上面から掘り込む SP12 の遺物から時期推測
H 層	8c ～ 10c 後葉？の盛土 遺物なし ※G 層との層位関係から時期推測
I 層	8c ～ 10c 後葉？の溝（SD17・18） 遺物なし ※G 層との層位関係から時期推測

1　N6/ 灰色砂質シルト層［鋤床］
径 1.0 ～ 5.0cm の 2.5Y7/2 灰黄色～ 2.5Y7/3 浅黄色粘土ブロック含む
2　2.5Y6/2 灰黄色粘土質シルト層
3　10YR6/6 明黄褐色粗砂層［盛土］
径 1.0 ～ 10.0cm の 5Y6/1 灰色～ N6/ 灰色シルト質粘土ブロック
4　2.5Y6/2 灰黄色粘土質シルト層［近世以降の盛土］
径 0.2 ～ 1.0cm の砂粒を含む
5　10YR6/2 灰黄褐色粘土質シルト層
径 0.2 ～ 1.0cm の砂粒を多量に含む［近世以降の盛土］
3 層よりはグライ化
6　10YR5/1 褐灰色砂質シルト層［作土？］
径 0.1 ～ 0.5cm の砂粒を含む
7　2.5YR6/3 にぶい橙色シルト質粘土層［盛土］
10YR6/1 褐灰色粘土層・10YR5/1 褐灰色シルト質粘土層をまだらに含む
8　2.5Y6/2 灰黄色～ 2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルト層［中世後半の盛土］
径 0.2 ～ 0.5cm の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルトブロック不均等に含む
径 0.2 ～ 1.0cm の砂粒を含む
9　10YR5/1 褐灰色砂質シルト層［11c 後半～ 12c 前半の盛土］
10YR6/6 明黄褐色シルト質粘土（基盤層）ブロックを帯状に含む
10　10YR6/2 灰黄褐色砂質シルト層［11c 後半～ 12c 前半の盛土］
径 0.2 ～ 0.5cm の 10YR6/2 灰黄褐色粘土質シルトブロックを不均等に含む
褐鉄鉱を含む
11　10YR5/1 褐灰色～ 10YR5/1 褐灰色砂質シルト層［11c 後半～ 12c 前半の盛土］
径 0.2 ～ 0.5cm の 10YR5/1 褐灰色粘土質シルトブロックを不均等に含む
褐鉄鉱を多量に含む
12　5B6/1 青灰色砂質シルト層［10c 末～ 11c 前半？の盛土］
径 0.2 ～ 0.5cm の 5B6/1 青灰色粘土質シルトブロックを不均等に含む
径 0.1 ～ 0.3cm の砂粒を少量含む　13 層に比べて砂質強い
13　5B5/1 青灰色シルト層［10c 末～ 11c 前半？の盛土］
径 0.2 ～ 0.5cm の 5B5/1 青灰色粘土質シルトブロックを多量に含む
径 0.1 ～ 0.3cm の砂粒を少量含む　褐鉄鉱を多量に含む
14　10YR6/6 明黄褐色シルト質粘土層［基盤層］
径 0.5 ～ 1.0cm の砂粒を少量含む
15　2.5Y6/3 にぶい黄色シルト質粘土層［基盤層］
径 1.0 ～ 5.0cm の礫を少量含む
16　10YR6/6 明黄褐色シルト質粘土層［基盤層］
径 1.0 ～ 5.0cm の礫を含む
17　5Y5/2 灰オリーブ色砂質シルト層［SD17］
径 0.2 ～ 0.5cm の N5/ 灰色シルト質粘土ブロック多量に含む
18　5B5/1 青灰色粘土質シルト層［作土］
19　5B5/1 青灰色粘土質シルト層［盛土］
径 0.2 ～ 0.5cm の砂粒を含む
20　5B5/1 青灰色砂質シルト層　褐鉄鉱を少量含む［SD18］
21　10YR6/6 明黄褐色シルト層［SD17・18 に伴う盛土］
径 0.2 ～ 1.0cm の N4/ 灰～ 5Y5/1 灰色粘土質ブロックを多量に含む
基盤層に似るが混っている
22　10YR6/6 明黄褐色シルト層［SD17 に伴う加工時形成層］
径 0.2 ～ 0.7cm の N5/ 灰色シルトブロック含む　褐鉄鉱含む

36-6 区 西壁断面図



J 層	8c ～ 11c 前半？の溝（SD03） 須恵器（9c 中葉最新）・瓦等 ※F 層との層位関係から時期推測
K 層	11c 後半～ 12c 前半？の盛土？ 土師質土器（小片、少量）
L 層	基盤層 遺物なし

1　10YR5/1 褐灰色砂質シルト層　径 0.2 ～ 0.5cm の砂粒を含む［鋤床］
2　10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト層　径 0.2 ～ 0.5cm の砂粒を多量に含む［盛土］
3　10YR7/6 明黄褐色シルト質粘土層　径 0.5 ～ 1.0cm の砂粒を含む［盛土］
10YR5/1 褐灰色砂質シルト層　N5/ 灰色粘土質シルト層をまだらに含む
4　5B4/1 暗青灰色粘土質シルト層　径 0.2 ～ 0.3cm の砂粒を含む［作土］
植物の繊維質含む
5　10YR6/2 灰黄褐～ 5B5/1 青灰色粘土質シルト層　径 0.2 ～ 0.5cm の砂粒を多く含む［近世以降の盛土］
6　10YR6/4 にぶい黄橙色粘土質シルト層　径 0.2 ～ 0.5cm の砂粒を多く含む［近世以降の盛土］
径 0.2 ～ 0.5cm の 5BG5/1 青灰色粘土ブロックを含む
7　10YR6/1 褐灰色砂質シルト層　径 0.2 ～ 0.3cm の砂粒を多量に含む［11c 後半～ 12c 前半？の盛土］
4・5 区の F 層と近いが全く同じ土質ではない
8　10YR6/6 明黄褐色粘土質シルト層　径 0.2 ～ 1.0cm の礫を多量に含む［基盤層］
9　10YR7/8 黄橙色粘土質シルト層［基盤層］

0　2m
（1/80）

第 20 図　36-4 ～ 36-6 区　断面図

写真 17　36-1 ～ 36-3 区　全景

写真 18　36-1 区　深掘位置

写真 19　36-1 区　断面深掘り

写真 20　36-2 区　断面深掘り

写真 21　36-3 区　断面

写真 22　36-4・36-5 区　全景

写真 23　36-4 区　SD03 平面

写真 24　36-4 区　斜面検出

写真 25　36-4 区　断面

写真 26　36-5 区　遺構検出状況

写真 27　36-5 区　SP12

写真 28　36-5 区　SP12 断面

写真 29　36-5 区　SP19 断面

写真 30　36-5 区　断面

写真 31　36-6 区　全景

写真 32　36-6 区　断面

４　香川県内遺跡発掘事業

香川県教育委員会では埋蔵文化財の適切な保護を図るため、国庫補助事業として遺跡詳細分布調査、遺跡発掘調査を継続して行ってきている。

本事業では国・県主体の種々の開発事業に対する事前の調整を図ることを主眼とした遺跡の分布・試掘調査や遺跡保存のための範囲確認調査等を行っており、実施機関は香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課である。

平成 26 年度からは、開発事業者に応じて事業の一部を分担してきたが、平成 29 年度からすべての開発事業者と事前協議、分布・試掘調査を行い、開発事業実施前に埋蔵文化財の保護に係り必要な資料の作成を行ってきている。この他、遺跡保存のための範囲確認調査も分担している。

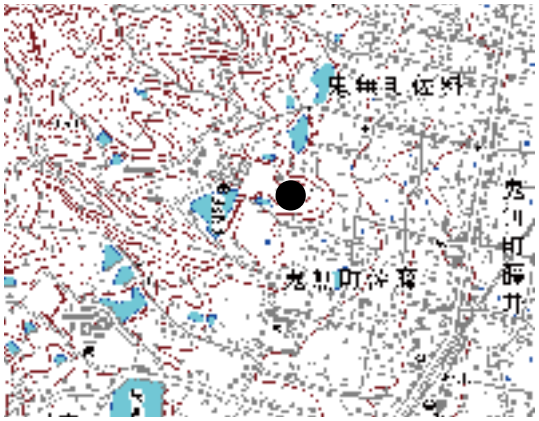
今年度は、開発に係る分布・試掘調査、及び遺跡保存のための範囲確認調査を行った。前者については、別に刊行した『埋蔵文化財試掘調査報告 31―平成 30 年度香川県内遺跡発掘調査―』を参照されたい。

ここでは、県指定史跡今岡古墳の追加指定の材料を得るために実施した、範囲確認調査の結果を報告する。

今岡古墳（いまおか）

県指定史跡の範囲を確認するための調査である。平成 30 年３月と平成 31 年３月に発掘調査を実施した。トレンチを３か所（平成 29 年度 - １トレンチ、平成 30 年度 - ３、４トレンチ）設定し、調査面積は 29㎡である。

墳丘測量図に基づき設定した主軸に沿う形で、後円部に設定した調査区を１トレンチ、前方部端を確認するために設定した調査区を３トレンチ、前方部の広がりを確認するために地形に沿う形で丘陵の頂部に設定した調査区を４トレンチとして調査を行った。



第 21 図　遺跡位置図（1/25,000）

調査の結果、本来の地山上の盛土により墳丘最上段の大部分を作ること、下位については丘陵の本来の形状をある程度利用して墳丘を形成していることが判明した。また、いずれの調査区においても、墳頂から１段目の平坦面の痕跡が確認されたほか、墳丘裾の人為的な平坦面の存在から、過年度に行った後円部の調査成果と合わせ、今岡古墳は従来想定されていた墳丘長（約 60 m）より規模が大きくなる可能性が高い。明確な段築盛が確認できていない部分もあるが、古墳の構造とし

写真 33　１トレンチ完掘状況 (東から）

ては、２段ないしは３段の段築盛を持つ前方後円墳であると考えられる。

以下に、各トレンチの調査所見を記載する。

１トレンチ

１トレンチは、主軸上での墳丘裾を確認するために設定した調査区である。墳丘構築時の盛土や葺石は確認できていない。地山上の堆積層は、10層に分層した。表土である１層以下は、古墳からの流出土を含む２～８層が存在し、６、７層については埴輪や転落石の量が多く、形態が判明する埴輪片も出土している。埴輪の多くは円筒埴輪であるが、形象埴輪と考えられる破片も出土している。他の層も含め、流土中に古墳時代以降の遺物は確認できなかった。

地山の傾斜については、２箇所の傾斜変化点が確認でき、２つの平坦面が確認される。これらはかつての墳丘のテラス面の痕跡となる可能性が高い。１トレンチで確認される上側の平坦面と近似する標高で、他の調査区においても平坦面が検出されている。下側の平坦面より東については、２ｍほど平坦な面が続いたのちに、緩やかな傾斜で丘陵本来の斜面に至る。下側の平坦面については、後世開墾等に伴う可能性も否定できず、後円部で明確な墳端は特定できないものの、少なくとも下側の平坦面より西については、古墳の墳丘の範囲としてとらえることができる。

３トレンチ

古墳の盛土による構築方法の一部が判明したほか、平坦面の痕跡を確認した。表土下には古墳築造以降の流土が堆積しており、少量の埴輪、葺石として利用していた可能性の高い河原石を含む。流土を除去したのち、調査区西側（墳裾側）では花崗岩質の基盤層（地山）が検出された。

調査区東側の墳頂に向かい斜面が急峻となる地点では、流土下に盛土の存在が確認できる。盛土より西側では、地山が本来の傾斜に対し部分的に

写真 34　１トレンチ平坦面上転落物出土状況

写真 35　３・４トレンチ完掘状況 (東から)

写真 36　３トレンチ北壁　盛土の状況

写真 37　４トレンチ完掘状況 (西から)

平坦になる範囲が認められ、その標高（58.4m）は、平成 29 年度の後円部の調査で検出した平坦面とほぼ同一である。調査区西側の墳裾部分については、後世の開墾により大きく改変を加えられていることが明らかとなり、本来の墳丘端を検証することはできなかった。

出土遺物については、円筒埴輪が大半である。

4 トレンチ

古墳の盛土及び、段築盛の痕跡が確認され、前方部の段築盛が２段以上存在することが判明したほか、前方部端における人為的な地形改変の痕跡が確認できた。

表土下には古墳築造以降の流土が堆積しており、その下から墳丘盛土、地山、平坦面に伴う盛土の可能性がある層が検出された。

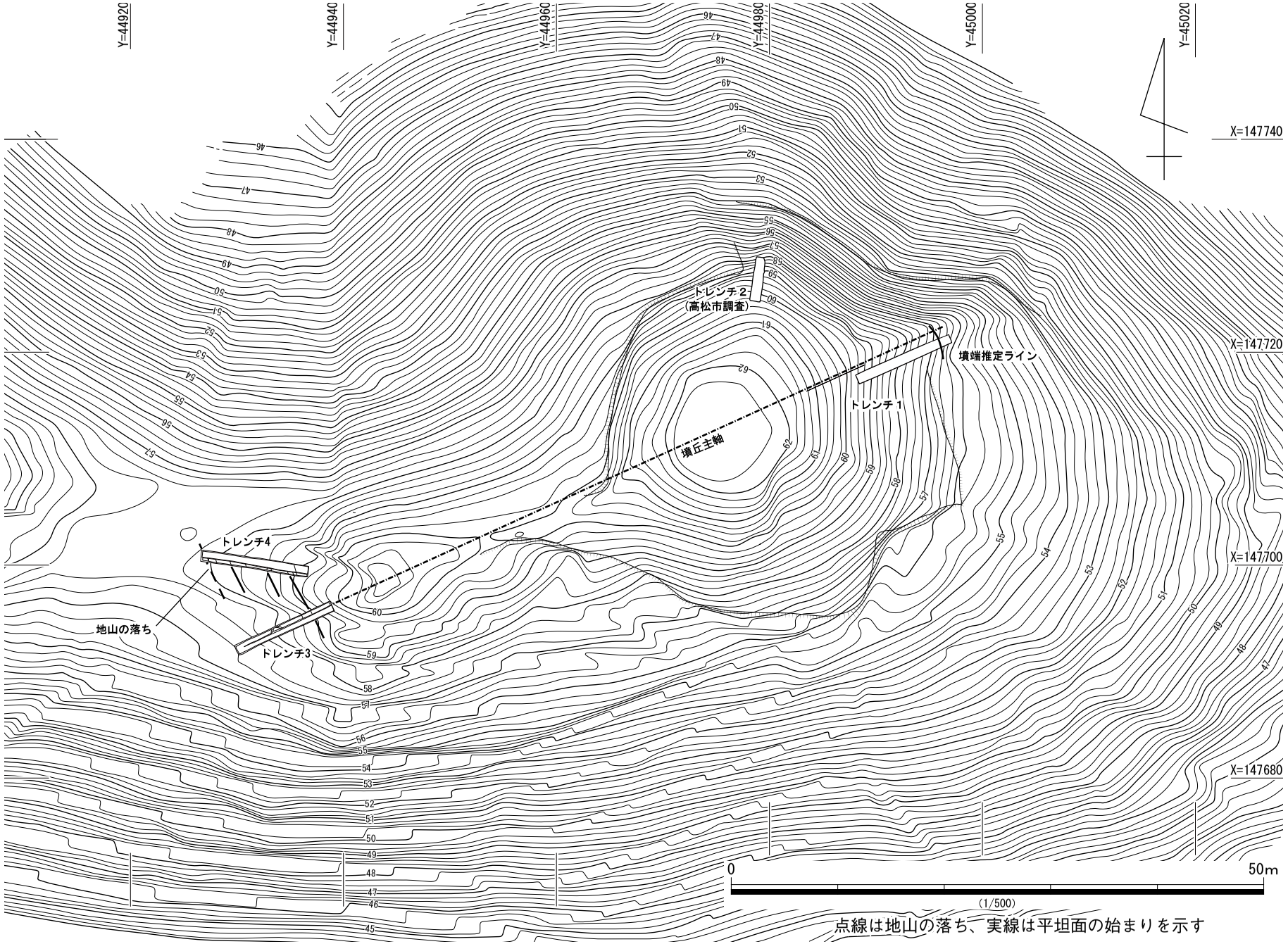
墳頂からの堆積状況は３トレンチと類似しており、地山の標高 58.4 ｍあたりの平坦面から上位にて盛土を行っている。墳裾に至るまでに平坦面を１面はさみ、４トレンチにおいては、２段の平坦面が確認できる。１段目以下の段は、トレンチが墳丘主軸に斜交することも有り、平面的に明瞭な段の痕跡は確認できていない。３トレンチにおいても、1 段目以下は後世の改変のため確認出来ていないことから、今後の調査の進展によっては段数の評価が変わる可能性もあり得る。最下段の平坦面は明瞭であり、平坦面上には一部円礫と粘質土が混ざる層が確認できる。これらは層厚も薄く、平坦面上の盛土の可能性も考えられる。平坦面の上面では、比較的大ぶりな円筒埴輪片が検出され、古墳築造以後の改変がそれほど及んでいない状況がみられた。平坦面は、丘陵の背部の西側においてもさらに続き、調査区の西端では、地形に沿わず基盤層が下がる状況が確認できることから、人為的な改変の痕跡が読み取れ、少なくともこの平坦面の下がりまでは、古墳築造に伴う改変が及ぶ範囲であると判断した。

なお、平坦面の幅については、３トレンチにおいては削平により残存状況が悪く、４トレンチについては、墳丘の主軸に斜交することと、平面的に十分な検出が困難であったことから、正確な規模の解明は今後の課題となる。

まとめ

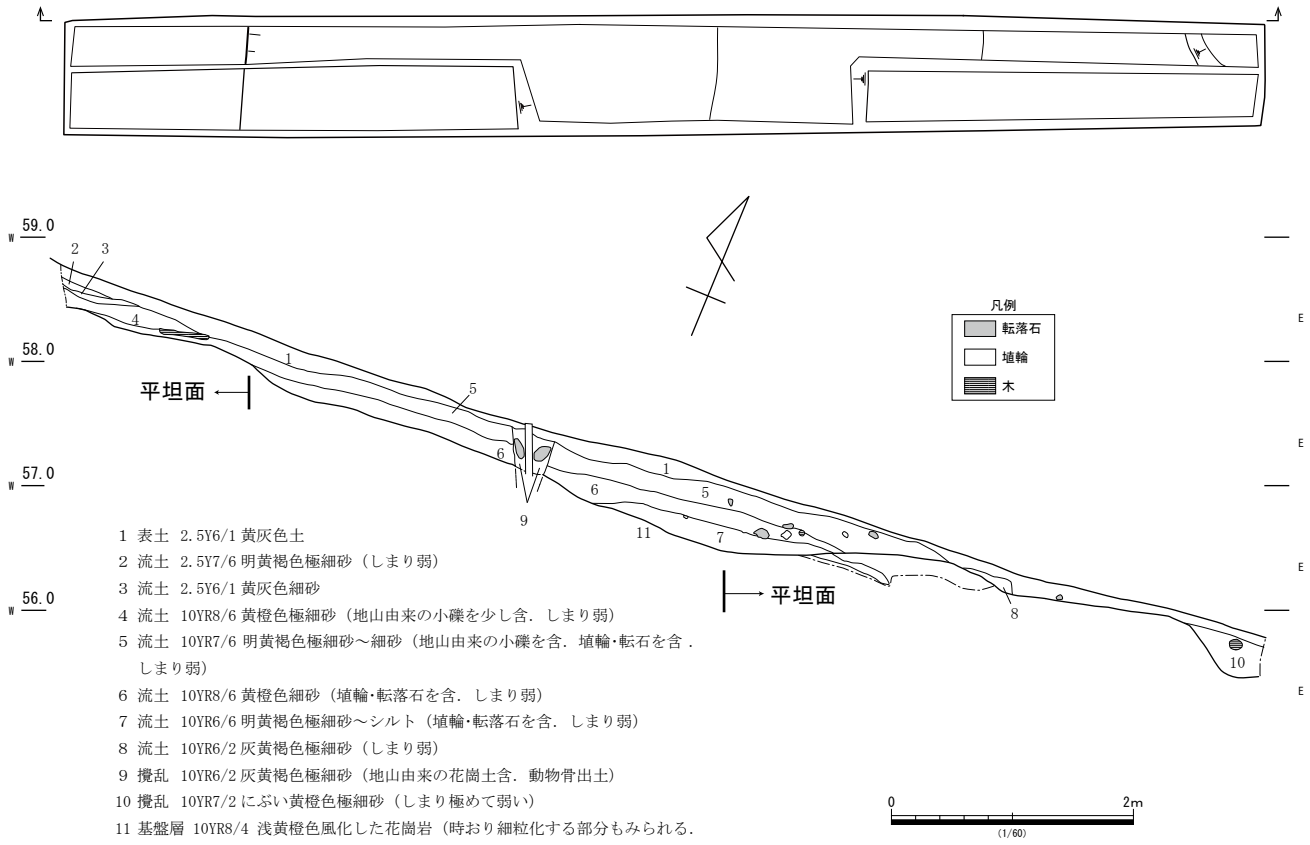
今回調査では、墳丘構築の状況、平坦面が前方部・後円部ともに同一レベルで広がる可能性が高いこと、古墳築造に伴い地形が改変された範囲などが判明したことが成果としてあげられる。古墳の全長についても、それぞれの明確な墳端はとらえられていないが、従来の推定よりも前方部長が大きくなる可能性は高い。

しかし、前方部の形状や、段築盛に伴う墳丘の明確な端部特定、墳丘構築に伴う丘陵部の改変状況や墳丘外表施設の解明は、今回調査では達成することはできなかったため、今後の調査課題となる。



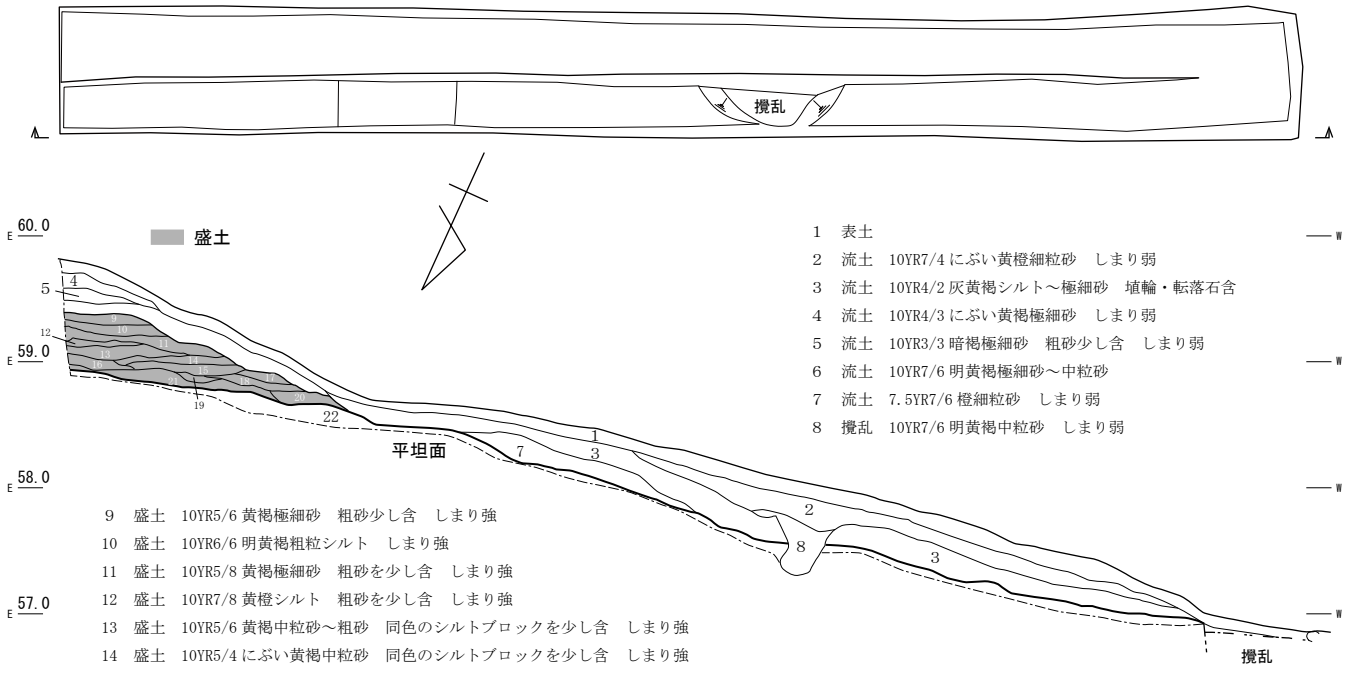
点線は地山の落ち、実線は平坦面の始まりを示す

第22図　トレンチ配置図



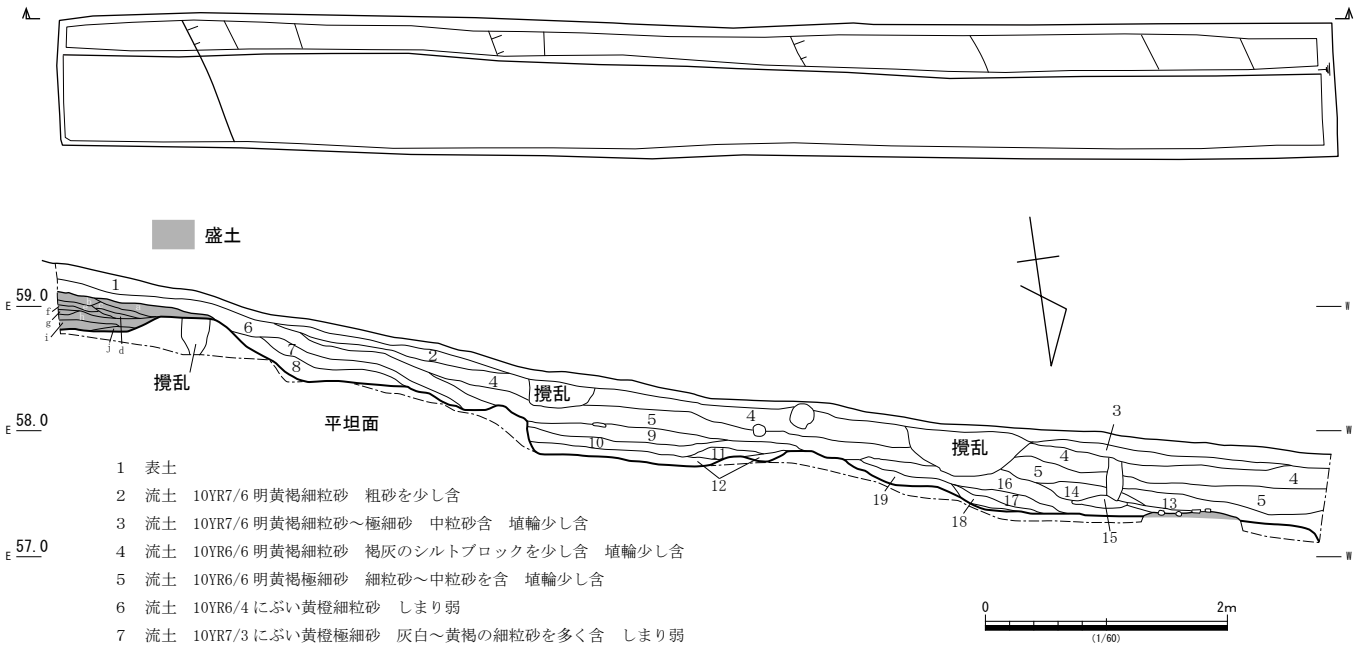
1 表土 2.5Y6/1 黄灰色土
2 流土 2.5Y7/6 明黄褐色極細砂（しまり弱）
3 流土 2.5Y6/1 黄灰色細砂
4 流土 10YR8/6 黄橙色極細砂（地山由来の小礫を少し含．しまり弱）
5 流土 10YR7/6 明黄褐色極細砂～細砂（地山由来の小礫を含．埴輪･転石を含．しまり弱）
6 流土 10YR8/6 黄橙色細砂（埴輪･転落石を含．しまり弱）
7 流土 10YR6/6 明黄褐色極細砂～シルト（埴輪･転落石を含．しまり弱）
8 流土 10YR6/2 灰黄褐色極細砂（しまり弱）
9 攪乱 10YR6/2 灰黄褐色極細砂（地山由来の花崗土含．動物骨出土）
10 攪乱 10YR7/2 にぶい黄橙色極細砂（しまり極めて弱い）
11 基盤層 10YR8/4 浅黄橙色風化した花崗岩（時おり細粒化する部分もみられる．風化バイラン土）

第 23 図　1 トレンチ　平・断面図（S=1/100）



1 表土
2 流土 10YR7/4 にぶい黄橙細粒砂 しまり弱
3 流土 10YR4/2 灰黄褐シルト～極細砂 埴輪・転落石含
4 流土 10YR4/3 にぶい黄褐極細砂 しまり弱
5 流土 10YR3/3 暗褐極細砂 粗砂少し含 しまり弱
6 流土 10YR7/6 明黄褐極細砂～中粒砂
7 流土 7.5YR7/6 橙細粒砂 しまり弱
8 攪乱 10YR7/6 明黄褐中粒砂 しまり弱
9 盛土 10YR5/6 黄褐極細砂 粗砂少し含 しまり強
10 盛土 10YR6/6 明黄褐粗粒シルト しまり強
11 盛土 10YR5/8 黄褐極細砂 粗砂を少し含 しまり強
12 盛土 10YR7/8 黄橙シルト 粗砂を少し含 しまり強
13 盛土 10YR5/6 黄褐中粒砂～粗砂 同色のシルトブロックを少し含 しまり強
14 盛土 10YR5/4 にぶい黄褐中粒砂 同色のシルトブロックを少し含 しまり強
15 盛土 10YR6/4 にぶい黄橙極細砂 中粒砂～粗砂を均質に含 しまり強
16 盛土 10YR4/3 にぶい黄褐中粒砂～粗砂 黄橙の極細砂を少し含
17 盛土 10YR7/8 黄橙極細砂～シルト 黄橙の粗砂を少し含
18 盛土 10YR6/4 にぶい黄橙極細砂～細粒砂
19 盛土 10YR6/6 明黄褐極細砂～細粒砂 同色のシルトブロックを含 しまり強
20 盛土 10YR6/3 にぶい黄橙中粒砂～細粒砂
21 盛土 10YR7/6 明黄褐中粒砂～細粒砂 しまり強
22 地山 10YR8/6 黄橙極細砂～シルト 粗砂少し含

第 24 図　3 トレンチ　平・断面図（S=1/40）



1　表土
2　流土　10YR7/6 明黄褐細粒砂　粗砂を少し含
3　流土　10YR7/6 明黄褐細粒砂～極細砂　中粒砂含　埴輪少し含
4　流土　10YR6/6 明黄褐細粒砂　褐灰のシルトブロックを少し含　埴輪少し含
5　流土　10YR6/6 明黄褐極細砂　細粒砂～中粒砂を含　埴輪少し含
6　流土　10YR6/4 にぶい黄橙細粒砂　しまり弱
7　流土　10YR7/3 にぶい黄橙極細砂　灰白～黄褐の細粒砂を多く含　しまり弱
8　流土　10YR6/3 にぶい黄橙極細砂　中粒砂含　埴輪・転落石含
9　流土　10YR5/4 にぶい黄褐極細砂～シルト　中粒砂少し含　埴輪含
10　流土　10YR6/4 にぶい黄橙シルト　中粒砂少し含　しまり少し弱
11　流土　7.5YR5/4 にぶい褐極細砂
12　流土　10YR6/6 明黄褐細粒砂　しまり少し弱い
13　流土　10YR6/4 にぶい黄橙極細砂～シルト　しまり弱　埴輪含
14　流土　10YR7/4 にぶい黄橙細粒砂　しまり弱
15　流土　10YR5/3 にぶい黄褐極細砂　中粒砂を少し含　しまりやや弱
16　流土　10YR7/4 にぶい黄橙極細砂～シルト
17　流土　10YR8/4 浅黄橙極細砂～シルト　埴輪含
18　流土　10YR7/4 にぶい黄橙極細砂～シルト　埴輪多く含
19　盛土？ 10YR7/2 にぶい黄橙粘質土　径３～ 10cm の円礫を少し含

a　10YR7/6 明黄褐細粒砂　同色のシルトブロック含む
b　10YR6/6 明黄褐極細砂～シルト　しまりやや強
c　10YR6/4 にぶい黄橙細粒砂～シルト
d　10YR5/4 にぶい黄褐細粒砂　しまり強
e　10YR7/6 明黄褐細粒砂　中粒砂少し含　しまり強
f　10YR5/6 黄褐細粒砂
g　10YR7/6 黄橙細粒砂　中粒砂を少し含　しまり強
h　10YR7/4 にぶい黄橙極細砂～シルト　しまり強
i　10YR6/4 にぶい黄橙シルト　しまり強
j　10YR5/4 にぶい黄褐細粒砂　中粒砂を少し含

第 25 図　4 トレンチ　平・断面図（S=1/40）

香川県埋蔵文化財センター年報

平成 30 年度

2019（令和元）年 12 月　日　発行

編集・発行　香川県埋蔵文化財センター
〒 762-0024
香川県坂出市府中町南谷 5001 番地 4
電　話（0877）48 － 2191
ＦＡＸ（0877）48 － 3249

印　刷